

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年3月30日

【事業年度】 第119期(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)

【会社名】 株式会社 白洋舎

【英訳名】 Hakuyosha Company, Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 五十嵐 素一

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区神山町4番14号

【電話番号】 03(3460)1111(大代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 丹羽 義己

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区神山町4番14号

【電話番号】 03(3460)1111(大代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 丹羽 義己

【縦覧に供する場所】 株式会社 白洋舎 大阪支店
(大阪市中央区北浜4丁目1番24号)

株式会社 白洋舎 名古屋支店
(名古屋市北区水草町1丁目27番地)

株式会社 白洋舎 湘南支店
(神奈川県鎌倉市大船1737番地)

株式会社 白洋舎 千葉支店
(千葉市美浜区新港221番地9)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第115期	第116期	第117期	第118期	第119期
決算年月	平成19年12月	平成20年12月	平成21年12月	平成22年12月	平成23年12月
売上高 (百万円)	48,899	48,251	45,772	44,270	42,780
経常利益 (百万円)	887	1,170	950	444	278
当期純利益又は当期純損失() (百万円)	17	308	318	219	515
包括利益 (百万円)					591
純資産額 (百万円)	7,423	6,369	6,333	6,356	5,480
総資産額 (百万円)	33,826	31,916	30,294	30,474	29,302
1株当たり純資産額 (円)	178.10	152.97	152.83	151.79	129.79
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額() (円)	0.45	8.03	8.30	5.72	13.45
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	20.2	18.4	19.4	19.1	17.0
自己資本利益率 (%)	0.2	4.9	5.4	3.8	9.6
株価収益率 (倍)	679.9	34.2	33.1	39.5	
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	608	1,156	1,622	561	571
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	900	930	696	455	230
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	6	155	1,787	323	77
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	1,413	1,491	630	414	827
従業員数 (ほか、平均臨時雇用者数) (名)	2,145 (2,960)	2,107 (3,005)	2,025 (2,904)	2,040 (3,018)	2,003 (2,855)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第115期、第116期、第117期、第118期は潜在株式がないため記載しておりません。また、第119期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、潜在株式がないため記載しておりません。

3 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

4 第119期の株価収益率については、当期純損失を計上しているため、記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第115期	第116期	第117期	第118期	第119期
決算年月	平成19年12月	平成20年12月	平成21年12月	平成22年12月	平成23年12月
売上高 (百万円)	37,873	37,155	34,903	33,991	31,936
経常利益 (百万円)	653	838	703	365	178
当期純利益又は当期純損失() (百万円)	223	152	202	245	442
資本金 (百万円)	2,410	2,410	2,410	2,410	2,410
発行済株式総数 (株)	39,000,000	39,000,000	39,000,000	39,000,000	39,000,000
純資産額 (百万円)	7,217	6,186	6,128	6,126	5,389
総資産額 (百万円)	27,554	25,641	24,632	24,740	23,849
1株当たり純資産額 (円)	185.17	158.89	157.48	157.55	138.61
1株当たり配当額 (円)	5.00	5.00	5.00	5.00	4.00
(内1株当たり 中間配当額) (円)	(2.50)	(2.50)	(2.50)	(2.50)	(1.50)
1株当たり当期純利益 金額又は1株当たり当 期純損失金額() (円)	5.73	3.92	5.21	6.30	11.37
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 金額 (円)					
自己資本比率 (%)	26.2	24.1	24.9	24.8	22.6
自己資本利益率 (%)	3.0	2.3	3.3	4.0	7.68
株価収益率 (倍)	53.4	70.2	52.8	35.9	
配当性向 (%)	87.2	127.6	96.0	79.4	
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数) (名)	1,623 (2,408)	1,604 (2,230)	1,517 (2,243)	1,527 (2,208)	1,459 (2,030)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第115期、第116期、第117期、第118期は潜在株式がないため記載しておりません。また、第119期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、潜在株式がないため記載しておりません。

3 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

4 第119期の株価収益率及び配当性向については、当期純損失を計上しているため、記載しておりません。

2 【沿革】

当社は、創始者五十嵐健治が明治39年3月14日東京日本橋において「白洋舎」と称し個人経営で洋式洗濯業を創業したことに始まり、その後大正9年株式会社に改組し現在に至っておりますが、その後の沿革は次のとおりであります。

大正9年5月 白洋舎クリーニング株式会社設立
 大正9年5月 名古屋支店設置
 大正9年11月 渋谷工場設置(旧渋谷支店)
 大正10年4月 大阪支店設置
 昭和2年12月 株式会社白洋舎と商号変更
 昭和6年6月 横浜支店設置
 昭和7年5月 札幌支店設置
 昭和7年5月 多摩川工場設置(現東京支店)
 昭和8年4月 静岡支店、仙台支店設置
 昭和13年4月 福岡支店設置
 昭和20年10月 京都支店設置
 昭和21年11月 湘南支店設置
 昭和24年5月 東京証券取引所上場
 昭和31年4月 東日本ホールセール株式会社(現・連結子会社)を設立
 昭和34年2月 信和実業株式会社(現・連結子会社)を設立
 昭和35年3月 大阪・淀屋橋白洋舎ビル竣工
 昭和36年2月 東京東支店設置
 昭和36年10月 大阪証券取引所上場(平成17年11月25日上場廃止)
 昭和37年2月 共同リネンサプライ株式会社(現・連結子会社)を設立
 昭和37年11月 日本リネンサプライ株式会社(現・連結子会社)を設立
 昭和38年8月 神戸支店設置(現・大阪支店)
 昭和38年9月 スターリース株式会社を設立
 昭和38年10月 株式会社ケイシーケイエンタープライズを設立
 昭和40年6月 札幌・白洋舎ビル竣工
 昭和42年8月 東京北支店設置
 昭和42年8月 武蔵野支店設置
 昭和44年8月 レンテックス東部事業所開設
 昭和44年9月 レンテックス西部事業所開設
 昭和44年12月 株式会社双立(現・連結子会社)を設立
 昭和45年2月 リネンサプライ小田原事業所開設
 昭和45年2月 白洋舎インターナショナル株式会社(現・連結子会社)を設立
 昭和45年4月 リネンサプライ京浜工場開設(現ユニフォームレンタル横浜事業所)
 昭和45年8月 広島支店設置
 昭和47年3月 大宮支店設置(現・東京北支店)
 昭和47年8月 奈良店開設(現京都支店)
 昭和48年2月 株式会社ジャパンアパレル・サービス(現・連結子会社)を設立
 昭和48年10月 厚木支店設置(現・湘南支店)
 昭和48年10月 千葉支店設置並びにリネンサプライ千葉事業所開設
 昭和49年8月 白洋舎不動産株式会社を設立
 昭和50年8月 マーキュリーコメント株式会社を設立
 昭和56年7月 ダステックスホノルル株式会社(現・連結子会社)を設立
 昭和56年12月 サニトーンジャパン株式会社を設立
 昭和57年12月 厚木市金田に相模支店設置、旧厚木支店併合
 昭和59年4月 リネンサプライ相模事業所開設
 昭和61年11月 渋谷支店を東京支店へ統合
 昭和62年1月 ハウスケア事業所開設
 昭和62年4月 東京西支店設置
 昭和63年4月 白洋舎本社ビル完成
 平成2年3月 東京北支店埼玉県新座市に移転
 平成9年1月 レンテックス埼玉事業所開設(現・ユニフォームレンタル横浜事業所)
 平成12年1月 ユニフォームレンタル東京事業所開設
 平成12年7月 ユニフォームレンタル西部事業所開設
 平成13年7月 ユニフォームレンタル福岡事業所開設
 平成15年1月 大宮支店を東京北支店へ統合
 平成15年1月 奈良支店を京都支店へ統合

平成15年1月 神戸支店を大阪支店へ統合
平成15年1月 相模支店を湘南支店へ統合
平成16年2月 有限会社マインクリーナースを設立
平成16年8月 栄リネンサプライ株式会社(現・白洋舎栄リネンサプライ株式会社 連結子会社)を
子会社へ
平成16年9月 マーキュリーコメット株式会社を清算
平成16年9月 株式会社阪急リネンサプライ株式取得
平成16年10月 株式会社ケイシーケイエンタープライズがサニトーンジャパン株式会社を合併
平成17年4月 株式会社阪急リネンサプライを共同リネンサプライ株式会社に商号変更
平成17年10月 信和実業株式会社が白洋舎不動産株式会社を合併
平成18年1月 東京西支店を武蔵野支店へ統合
平成18年9月 株式会社双立、信和実業株式会社、スターリース株式会社が完全子会社となる
平成19年1月 リネンサプライ小田原事業所をリネンサプライ相模事業所へ統合
平成19年10月 共同リネンサプライ株式会社(東京都大田区)が共同リネンサプライ株式会社
(大阪府大阪市淀川区)を合併
平成20年1月 札幌支店を会社分割し、札幌白洋舎株式会社(現・連結子会社)を設立
平成20年10月 スターリース株式会社を吸収合併
平成21年6月 有限会社マインクリーナースを清算
平成21年10月 株式会社双立が株式会社ケイシーケイエンタープライズを合併
平成22年9月 北洋リネンサプライ株式会社を連結子会社へ
平成23年1月 静岡支店を会社分割し、静岡白洋舎株式会社(現・連結子会社)を設立

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社12社及び関連会社4社で構成されております。

当社グループ事業に係わる位置づけおよびセグメントの関連は、次のとおりであります。

なお、セグメントと同一の区分であります。

クリーニング

個人および法人のドライクリーニング品、ランドリー品などの洗濯、仕上、加工などを取扱う事業であります。

(主な関係会社)

東日本ホールセール(株)、白洋舎インターナショナル(株)、札幌白洋舎(株)、静岡白洋舎(株)

レンタル

ホテル、レストラン、会社等のユニフォームやシート、布団カバーなどのクリーニング付レンタルを取扱う事業であります。

(主な関係会社)

白洋舎栄リネンサプライ(株)、共同リネンサプライ(株)、日本リネンサプライ(株)、ダステックスホノルル(株)、北洋リネンサプライ(株)

不動産

不動産の賃貸および管理・仲介などを取扱う事業であります。

(主な関係会社)

信和実業(株)

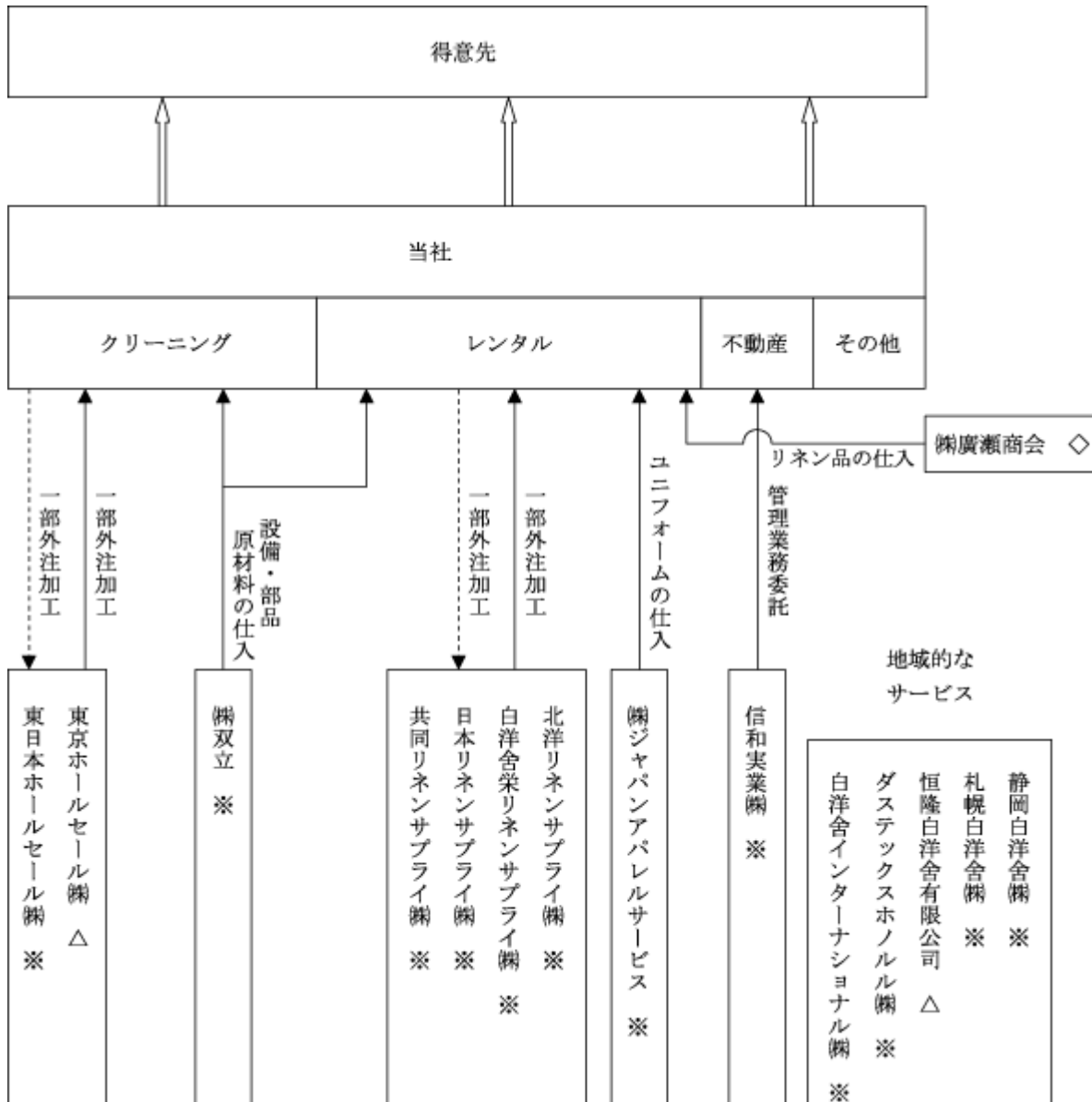
その他

ハウスクリーニングやモップ、マット等のレンタルを行うクリーンサービス事業や、洗濯機械販売、修理、各種洗濯資材・ユニフォームの製造、販売などを取扱う事業を含んでおります。

(主な関係会社)

(株)双立、(株)ジャパンアパレルサービス

事業の系統図は次の通りであります。



連結子会社.....
(12社) 印

白洋舎インターナショナル(株)・日本リネンサプライ(株)・共同リネンサプライ(株)・東日本ホールセール(株)・(株)ジャパンアパレルサービス・(株)双立・信和実業(株)・ダステックスホノルル(株)・白洋舎栄リネンサプライ(株)・札幌白洋舎(株)・北洋リネンサプライ(株)・静岡白洋舎(株)

持分法適用関連会社...
(2社) 印

恒隆白洋舎有限公司・東京ホールセール(株)

持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社
(2社)

重要な関連当事者..... (株)廣瀬商会
(1社) 印

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有 割合(%)	
(連結子会社) 札幌白洋舎(株)	北海道札幌市西 区	95	クリーニング	100.00 () []		役員の兼務 3名
静岡白洋舎(株)	静岡県静岡市駿 河区	95	クリーニング	100.00 () []		役員の兼務 4名
東日本ホールセール(株)	群馬県前橋市	90	クリーニング	82.92 (57.47) [12.86]		毛皮・皮革等のクリーニングを外注 している。 債務保証をしている。 役員の兼務 2名
共同リネンサプライ(株) (注)2,5	東京都大田区	446	レンタル	80.25 () [6.43]		リネンサプライ業務を外注してい る。 役員の兼務 4名
日本リネンサプライ(株)	神奈川県横浜市 港北区	99	レンタル	73.84 (3.03) [0.91]		リネンサプライ業務を外注してい る。 役員の兼務 4名
白洋舎栄リネンサプライ (株)	愛知県北名古屋 市	30	レンタル	100.00 () []		リネンサプライ業務を外注してい る。 役員の兼務 3名
北洋リネンサプライ(株)	北海道札幌市東 区	25	レンタル	72.00 () [4.00]		役員の兼務 5名
信和実業(株)	東京都渋谷区	14	不動産	100.00 () []		損害保険、不動産賃貸及び管理を委 託している。 役員の兼務 3名
(株)ジャパン アパレルサービス	東京都目黒区	50	その他	55.01 (30.01) []		ユニフォームレンタル用リネンの仕 入を委託している。 役員の兼務 3名
(株)双立	東京都渋谷区	20	その他	100.00 () []		クリーニング用資材の仕入を委託し ている。 役員の兼務 3名
白洋舎インター ナショナル(株)	USA.Hawaii	US \$ 238,730	クリーニング	76.02 (22.01) [13.55]		不動産の賃貸をしている。 役員の兼務 5名
ダステックス ホノルル(株)	"	US \$ 597,145	レンタル	97.01 (64.81) []		貸付を行っている。 役員の兼務 4名
(持分法適用関連会社) 東京ホールセール(株)	東京都府中市	160	クリーニング	22.08 (7.45) [12.17]	4.67	毛皮・皮革等のクリーニングを外注 している。 役員の兼務 3名
恒隆白洋舎有限公司	Hong Kong	HK \$ 800,000	クリーニング	50.00 () []		役員の兼務 2名

- (注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。
2 特定子会社に該当しております。
3 有価証券届出書または有価証券報告書を提出している会社はありません。
4 議決権の所有割合の(内書)は間接所有であり、〔外書〕は緊密な者等の所有割合であります。
5 共同リネンサプライ(株)については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

売上高	5,442百万円
経常利益	134百万円
当期純利益	59百万円
純資産額	1,640百万円
総資産額	4,533百万円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成23年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
クリーニング	1,345(1,901)
レンタル	469(872)
不動産	8(2)
その他	119(72)
全社	62(8)
合計	2,003(2,855)

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
2 従業員数欄の()内の数字は、外書で臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(2) 提出会社の状況

平成23年12月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,459(2,030)	38.6	12.9	4,255,205

セグメントの名称	従業員数(名)
クリーニング	1,136(1,669)
レンタル	188(295)
不動産	()
その他	73(58)
全社	62(8)
合計	1,459(2,030)

- (注) 1 従業員は就業人員であります。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3 従業員数欄の()内の数字は、外書で臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合は企業内組合であって、「白洋舎労働組合」と称しており、連結子会社及び関連会社等には労働組合はありません。特に記す事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度（平成23年1月1日～同12月31日）におけるわが国経済は、東日本大震災を機に生産活動の停滞や消費の冷え込みなど需給両面から急激かつ大幅な落ち込みに転じましたが、後半にかけては徐々に回復傾向に向かいました。クリーニング業界においても震災後の大きな落ち込みから回復傾向は見られたもののその足取りは重く、秋口までは大幅な前年割れが続いていましたが、年度終盤にかけて持ち直しの動きに転じております。リネンサプライ業界においては震災以降、大口顧客であるホテル等の稼働率の低下に見舞われたものの、年度後半は回復傾向にあります。

このような状況下、当社グループ（当社および連結子会社）では長引くクリーニング需要の停滞に向けた対応として新たな需要を掘り起こすべく、魅力的な新規サービスの提供や、情報誌の発行、ダイレクトメール・電話による情報提供などお客さまコミュニケーションの活発化に取り組みましたが、売上の減少をカバーするには至らず、当社グループの売上高は427億8千万円（前年比3.4%減）、営業利益は3億7千4百万円（同26.1%減）、経常利益は2億7千8百万円（同37.2%減）となりました。

また、震災による損害として仙台市、千葉市等の一部工場や店舗における建物及び機械設備等の復旧費用、会計基準変更に伴う資産除去債務の一括計上および、減損会計基準の適用に伴う固定資産の減損を特別損失で処理したことや、法人税率の引き下げに伴う繰延税金資産の取崩しの発生等もあり5億1千5百万円の当期純損失（前年同期は2億1千9百万円の当期純利益）となりました。

セグメント別の状況は、次のとおりであります。

なお、当連結会計年度より、事業実態をより適切に反映するため事業区分を変更しております。前連結会計年度との比較にあたっては、前連結会計年度分を変更後の区分に組み替えて表示しております。

<クリーニング>

個人向けの当セグメントについては、中長期的に需要が減退しており、当社グループの売上也苦戦が続く中、新規のお客さまを積極的に獲得する戦略を推進しました。具体的には魅力的な新サービスとして4月に「シャキット加工」を投入、6月には「カスタムクリスタルクリーニング」の全国受付を開始しました。また、夏にかけて節電の動きが広がる中、汗汚れに関するお客さまニーズへの対応として水洗い品の販促に力を入れました。さらに、多様化するお客さまニーズへの対応として、三越銀座店やそごう横浜店といった百貨店内に特色を持った新規店舗をオープンしたほか、宅配便によるじゅうたんクリーニングのホームページ受付を開始し、店舗のない地域のお客さまへの対応にも取り組みました。年度後半には新たな顧客層の獲得とお客さまサービスの拡充を目的にアパレルメーカー等他業種との提携や業務上の連携を積極的に進めました。

しかしながら、震災の影響による消費マインドの急激な冷え込みが繁忙期需要の低下を招き、結果として売上高は225億6千2百万円（前年比3.2%減）、営業利益は7億6千7百万円（同14.0%増）となりました。

<レンタル>

当セグメントは、ホテル・レストラン等向けのリネンサプライ部門、工場等の事業所向けのユニフォームレンタル部門に大別されますが、この二つの部門においても震災の影響を大きく受けました。特にリネンサプライ部門は震災直後、主力顧客である都内高級ホテルについては外国人旅行者が急激に減少し、関東地方のリゾート系ホテルについてはいわゆる「自粛ムード」による利用客の激減に見舞われ、売上が

大幅に低下しました。年度後半以降はホテル宿泊稼働も回復傾向となり、企業・団体等の宴会需要にも再開の動きが出るなど明るい材料も見られましたが、前半の落ち込みを補うには至りませんでした。一方、ユニフォームレンタル部門についても震災後、工場等の操業休止やその後の人員削減等により取り扱い数量が減少するなどの影響が生じました。これらの結果、売上高は165億7千5百万円(前年比2.9%減)、営業利益は5億7千5百万円(同43.9%減)となりました。

このような状況下、当社グループは、衛生品質意識の高まる食品メーカーのニーズに応えるため、平成23年6月に当社ユニフォームレンタル横浜事業所でISO22000の認証を取得しました。ISO22000は食品の製造・流通・販売過程における安全を確保するためのマネジメントシステムに対する認証基準であり、クリーニング事業者が取得することは異例ですが、同事業所では工場設備のほか洗浄、荷分け、配送工程について徹底的な見直しを行い、レンタルユニフォームの衛生面において高い品質を確保する体制を構築することにより認証取得に至りました。夏場以降、製造業を中心に操業が正常化する中、効果が徐々に表れ、新規契約獲得につながってきております。

<不動産>

当セグメントでは不動産の賃貸および管理・仲介を行っております。

売上高は5億2千4百万円(前年比0.9%減)、営業利益は2億3千7百万円(同22.0%増)となりました。

なお、当社グループ所有の不動産等については震災による大きな損害は生じておりません。

<その他>

事業所および家庭向けにモップ・マット等を供給するケミサプライ並びに、オフィス等の清掃、リフォーム、オフィス用品のレンタル等を行うハウスクリーニングの2分野(クリーンサービス事業)では、同業他社との競争環境が厳しく、特に法人の業務ではユーザーからの値下げ要請が強く利益の圧迫要因になっております。これに対し、集配拠点の統合、外部に委託していた一部集配の自社への取込み、作業の効率化などの取組みを行い、利益の確保に努力しました。上記2分野(クリーンサービス事業)並びに機械、資材販売などを含むその他事業については、売上高は31億1千7百万円(前年比7.1%減)、営業利益は1億9百万円(同16.8%増)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、営業活動によるキャッシュ・フロー収入5億7千1百万円、投資活動によるキャッシュ・フロー支出2億3千万円、財務活動によるキャッシュ・フロー収入7千7百万円などにより4億1千2百万円増加いたしました。その結果、現金及び現金同等物の期末残高は、前年比99.4%増の8億2千7百万円となりました。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費10億3千4百万円、減損損失3億4千7百万円、退職給付引当金の減少額6億1千5百万円、支払利息2億6千5百万円、法人税等の支払額3億4千9百万円などにより、前年比1.7%増の5億7千1百万円の収入となりました。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出4億3千4百万円、投資有価証券の売却による収入1億8千7百万円などにより、前年比49.5%増の2億3千万円の支出となりました。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動によるキャッシュ・フローは長短借入金による収入158億2千4百万円、長短借入金の返済による支出152億3百万円、リース債務の返済による支払額3億3千4百万円などにより、前年の3億2千3百万円の支出に比べ4億円増加し、7千7百万円の収入となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日 (百万円)	前年同期比(%)
クリーニング	22,562	3.2
レンタル	16,575	2.9
不動産	524	0.9
その他	3,117	7.1
合計	42,780	3.4

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 前年同期比にあたっては、前連結会計年度分を変更後の区分に組み替えております。

(2) 受注実績

当グループは見込み生産を行っていないため、該当事項はありません。

(3) 販売実績

販売実績は、生産実績と同一であるため記載しておりません。

3 【対処すべき課題】

日本のクリーニング需要は長期的に低下傾向にあります。ここ数年は、景気低迷や東日本大震災の影響も受けておりますが、長期的に見て国内の人口構成の変化や、クールビズ等に象徴される服装のカジュアル化、家庭用洗濯機等の高機能化などといった構造的な要因によるものと考えられます。当社グループとしては、これらの環境変化を踏まえ、クリーニング事業は大きな変革期に来ているとの認識を持っております。

また、レンタル事業のリネンサプライ部門においては、新設のホテル客室数の増加に頭打ち傾向が見られる中、平成23年度は東日本大震災によりホテルの稼働面で大きな打撃を受けました。一方、ユニフォームレンタル部門においては、製造業を中心に生産拠点の海外移転が進むと共に国内ではコスト圧縮圧力が強まり、市場の伸び悩み、低価格競争の激化など厳しい環境が続くことが予想されます。

こうした現状を踏まえ、お客さま満足をすべての価値の基軸とする「顧客中心経営」を経営の根幹に据えて、平成24年度から3カ年の新中期経営計画をスタートさせてまいります。

これまで当社グループは、長い歴史の中で培われた強い営業基盤や独自の技術力、確かな品質といった「強み」に支えられてきました。今後は「顧客中心経営」を土台に置いて、これらの「強み」を「お客さまのために役立てる」という観点から見直し、さらに磨き上げてまいります。また、創業110周年（平成28年度）に向け、人材の育成、システムインフラの増強など、企業としての体力強化を図り、当社ならではのビジネスの展開や価値の創造を目指してまいります。具体的には、クリーニング事業においては、まず「お客さま全員アンケート」（集配サービスご利用のお客さま対象）などを通じ、お客さまのご要望を積極的に取り入れられるよう努力してまいります。これらのご要望を新商品の開発やサービスの向上に活かし、家庭での洗濯で代替できないクリーニングならではの効果や楽しさを提供できるよう努めてまいります。

レンタル事業においても、お客さまのニーズを見据え、時代や地域の要請に合わせた商品提供や営業拠

点の再編を行ってまいります。具体的には、食品関連企業を中心に衛生への関心が高い業種や医療介護など需要の高まる分野への商品・サービス展開、新設ホテルや全国ホテルチェーンへの営業展開などを検討、実施してまいります。これらはクリーニング事業で培われた信頼性の高いクリーニング技術を基礎に成り立つものであり、お客さまに喜ばれる価値を提供できるものと確信しております。

また、お客さまに最高のご満足を提案できるプロフェッショナルな人材の育成や、システム開発、制度改革などを進め、より迅速・高品質で利便性の高いサービスをお客さまに提供できるよう現場サポートを充実してまいります。

4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。

クリーニング需要の大幅後退のリスク

クリーニング需要の変動は短期的には起こりにくく比較的安定していると言えますが、人口高齢化に伴う生産年齢人口の減少、服装のカジュアル化、家庭用洗濯機並びに洗剤の高機能化等の要因により、クリーニング需要は中長期的に減少傾向となっています。当社グループではこれらの要因が今後もクリーニング需要の減少要因になることを、経営上の前提として認識した上で経営計画を策定していますが、中長期的に想定以上の需要後退が進んだ場合、当社グループの経営成績に大きな悪影響が及ぶ可能性があります。

天候のリスク

クリーニング事業は、天候変動の影響を受けやすく、暖冬や冷夏、あるいは季節の変わり目の時期の遅れなどによりクリーニング需要が変動するケースがあります。

また、レンタル事業のうちホテル依存度の高いリネンサプライ事業でも天候不順によるホテル宿泊客の変動などにより需要が変動する場合があります。当社グループではこれらの事前の予測等も踏まえつつ、生産計画、雇用計画を策定していますが、予想に反する大幅な天候変動があった場合、当社グループの経営成績に影響が及ぶ可能性があります。

業務委託に関するリスク

当社グループは、業務の一部をグループ外部の工場等へ業務委託しています。業務委託に関しては問題発生を未然に防止するよう綿密な連携をとりながら、関連法規制の遵守、品質管理等の徹底を図っておりますが、不測の事態により委託先において業務に支障が生じた場合には、当社グループの経営成績に悪影響が及ぶ可能性があります。

特定取引先への集中リスク

レンタル事業においては、大手のホテル・レストラン・コンビニエンスストア等を中心とする大口法人得意の売上占有率が高く、得意先の業績不振や取引内容の変更、契約終了等が当社グループの経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

法的規制等によるリスク

クリーニング施設を廃止する場合等に、土壌汚染対策法で規定された対応が必要になります。当社グループでは土壌汚染については万全の防止策をとっていますが、土壌改良等が必要になった場合、経営成績への一定の悪影響が生じる可能性があります。

また、環境関連その他で新たな法令、規制等が導入された場合、業務への支障、経営成績への悪影響が及ぶ可能性があります。

石油系の洗浄・乾燥設備に起因するリスク

ドライクリーニング工場には石油系の洗浄・乾燥設備があり、防火防爆の安全対策を施しています。し

かし、万一爆発火災が発生すれば、人身事故、近隣への延焼、クリーニング品の焼失、工場設備の焼損など多大な損害につながる可能性があります。

原油価格・原材料の高騰によるリスク

燃料、資材の高騰は当社グループの経営成績に直接的な悪影響を及ぼします。とりわけ原油価格の高騰は、溶剤価格、燃料費、仕入資材の値上り等、幅広く影響が及びます。

情報システム障害によるリスク

経理、営業、工場の各部門に導入している情報管理システムについての維持管理、セキュリティ管理は万全を期しておりますが、不測の天災・人災によってそれぞれの中核設備・端末機器・ソフトウェア等の故障・破壊、システム障害（システムダウン）が万が一起きれば、データが消滅して多大な被害を引き起こします。

情報漏洩によるリスク

当社の所有する個人情報、個人情報保護法に基づいて社内で定めた個人情報管理規程および情報システム管理規程により、情報の取り扱いを制限しておりますが、何らかの形でこれらが漏洩すれば関係者はもとより周辺に及ぼす影響は多大なものとなります。

減損会計適用の影響

当社グループは、事業用の不動産をはじめとする固定資産を所有しております。こうした資産は、時価の下落や収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなると減損処理が必要となる場合があり、当社グループの財政状態および業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

得意先の経営破綻

当社グループは、得意先に対する売掛金等の与信管理について事前に情報収集を行うなど十分に留意しておりますが、予期せぬ得意先の経営破綻が発生した場合には、当社グループの財政状態および業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

繰延税金資産等

当社グループでは、将来の課税所得等に関する予測に基づき回収可能性を慎重に検討した上で繰延税金資産等を計上しております。しかし、今後の業績動向等により、一部ないし全部について回収可能性が低いと判断された場合、繰延税金資産等の計上額が修正され、当社グループの財政状態および業績に影響を与える可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループでは、研究部門(全社(共通))において、東京都大田区下丸子に洗濯科学研究所をもっており、研究内容は主として洗濯溶剤の管理・事故品の経過追及等の業務であります。

当連結会計年度の研究開発費42百万円(セグメント上は配賦不能営業費用)となっております。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)重要な会計方針および見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、見積りが必要な事項につきましては、合理的な基準に基づき、会計上の見積りを行っております。

詳細につきましては、「第一部企業情報 第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 連結財務諸表作成のため

の基本となる重要な事項」をご参照ください。

(2)当連結会計年度末の財政状態の分析

(流動資産)

当連結会計年度末の流動資産合計は、98億9千5百万円となり、前連結会計年度末の98億4千3百万円と比較して5千1百万円の増加となりました。主に、現金及び預金の増加2億9千6百万円によるものです。

(固定資産)

当連結会計年度末の固定資産合計は、194億7百万円となり、前連結会計年度末の206億3千万円と比較して12億2千3百万円の減少となりました。主に、建物及び構築物の減価償却等による減少3億6千1百万円、土地の減損損失等による減少3億3千5百万円によるものです。

(流動負債)

当連結会計年度末の流動負債合計は、124億3千3百万円となり、前連結会計年度末の143億3千7百万円と比較して19億3百万円の減少となりました。主に、1年以内に返済する長期借入金の減少13億9千8百万円によるものです。

(固定負債)

当連結会計年度末の固定負債合計は、113億8千8百万円となり、前連結会計年度末の97億8千1百万円と比較して16億7百万円の増加となりました。主に、長期借入金の増加20億4千万円によるものです。

(純資産)

当連結会計年度末の純資産合計は、54億8千万円となり、前連結会計年度末の63億5千6百万円と比較して、8億7千6百万円の減少となりました。主に当期純損失5億1千5百万円と剰余金の配当1億5千5百万円による利益剰余金の減少6億7千1百万円によるものです。

(3)当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度の概況につきましては、「第一部企業情報 第2事業の状況 1業績等の概要(1)業績」に記載しております。具体的な経営成績の分析につきましては以下のとおりであります。

売上高

当連結会計年度の売上高は427億8千万円となり、前連結会計年度の売上高442億7千万円と比較して14億9百万円の減少となりました。セグメント別の業績及び主な理由につきましては、「第一部企業情報 第2事業の状況 1業績等の概要(1)業績」に記載のとおりであります。

売上原価、販売費及び一般管理費

当連結会計年度の売上原価は371億8千9百万円となり、前連結会計年度の売上原価386億7千3百万円と比較して14億8千4百万円の減少となりました。販売費及び一般管理費は52億1千6百万円となり、前連結会計年度の販売費及び一般管理費50億8千9百万円と比較して1億2千6百万円の増加となりました。主な要因としては、給料手当及び賞与が6千2百万円増加したためであります。

営業利益

上記の売上高及び売上原価、販売費及び一般管理費に記載しました理由により、当連結会計年度の営業利益は3億7千4百万円となり、前連結会計年度の営業利益5億7百万円と比較し1億3千2百万円の減少となりました。

営業外損益

当連結会計年度の営業外収益は2億8千9百万円となり、前連結会計年度の営業外収益3億8千9百万円と比較して9千9百万円の減少となりました。主な要因としては、受取補償金が4千2百万円減少したためであります。当連結会計年度の営業外費用は3億8千5百万円となり、前連結会計年度の営業外費用4億5千2百万円と比較して6千6百万円の減少となりました。

経常利益

上記の 営業外損益に記載しました理由により、当連結会計年度の経常利益は2億7千8百万円となり前連結会計年度の経常利益4億4千4百万円と比較して1億6千5百万円の減少となりました。

特別損益

当連結会計年度の特別利益は投資有価証券売却益1億6千7百万円等により、3億4千6百万円となり、前連結会計年度の特別利益3億1千2百万円と比較して3千3百万円の増加となりました。

当連結会計年度の特別損失は減損損失3億4千7百万円、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額1億5千7百万円等により、6億6千3百万円となり前連結会計年度の特別損失3千5百万円と比較して6億2千7百万円の増加となりました。

税金等調整前当期純損失

上記の 特別損益に記載しました理由により、当連結会計年度の税金等調整前当期純損失は3千8百万円となり、前連結会計年度の税金等調整前当期純利益7億2千万円と比較して7億5千8百万円の減少となりました。

当期純損失

法人税、住民税及び事業税並びに法人税等調整額の合計金額が、前連結会計年度と比較して7千1百万円の減少となりました。その結果、当連結会計年度の当期純損失は5億1千5百万円となり、前連結会計年度の当期純利益2億1千9百万円と比較して、7億3千4百万円の減少となりました。

(4)資本の財源及び資金の流動性についての分析

キャッシュ・フローの分析については、「第一部企業情報 第2事業の状況 1 業績等の概要(2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

(5)戦略的現状と見通し

戦略的現状と見通しにつきましては、「第一部企業情報 第2事業の状況 3 対処すべき課題」に記載のとおりであります。

(6)経営者の問題認識と今後の方針について

経営者の問題認識と今後の方針につきましては、「第一部企業情報 第2事業の状況 3 対処すべき課題」に記載のとおりであります。

(7)経営成績に重要な課題を与える要因について

経営成績に重要な課題を与える要因につきましては、「第一部企業情報 第2事業の状況 4 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループ(当社及び連結子会社)では、当連結会計年度は全体で8億9千5百万円の設備投資を実施しました。

セグメント別に見ると「クリーニング」におきましては、新規店舗及びクリーニング機械設備等に4億2千8百万円、「レンタル」におきましては、機械生産設備強化等に4億6百万円、「不動産」におきましては1千万円、「その他」におきましては3千2百万円の投資を実施しました。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成23年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積㎡)	リース資 産	その他	合計	
東京支店他 (東京都大田区他)	クリーニング	洗濯設備	2,315	97	2,259 (47,291.12)	461	83	5,218	1,136 (1,669)
リネンサプライ 千葉事業所他 (千葉県千葉市美 浜区他)	レンタル	"	769	136	921 (16,248.36)	129	12	1,970	188 (295)
神山ビル他 (東京都渋谷区他)	不動産	賃貸ビル	1,394		373 (10,031.40)		1	1,769	()
レンテックス東部 事業所他 (東京都大田区他)	その他	洗濯設備	19	5		11	2	39	73 (58)
本社他 (東京都渋谷区他)	全社	事務所	40	0	795 (5,855.54)	7	21	865	62 (8)

上記の他、主要な設備のうち連結会社以外から賃借している主な設備の内容は、下記のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間リース料 (百万円)	リース契約残高 (百万円)
リネンサプライ千葉事業所 (千葉県千葉市美浜区)	レンタル	洗濯設備	58	48
東京支店 (東京都大田区)	クリーニング	洗濯設備	52	45
リネンサプライ相模事業所 (神奈川県厚木市)	レンタル	洗濯設備	15	37

(2) 国内子会社

平成23年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメン トの名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積㎡)	リース資 産	その他	合計	
共同リネン サプライ(株)	東京都大 田区	レンタル	洗濯設備	229	516	1,716 (5,967.99)	54	12	2,529	151 (363)
東日本ホール セール(株)	群馬県前 橋市	クリーン グ	"	212	15	49 (3,178.18)	3	0	280	25 (64)
信和実業(株)	東京都 渋谷区	不動産	建物	555	2	650 (3,831.98)		0	1,209	8 (2)

上記の他、主要な設備のうち連結会社以外から賃借している主な設備の内容は、下記のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間リース料 (百万円)	リース契約残高 (百万円)
共同リネンサプライ(株)	東京都大田区	レンタル	洗濯設備	26	56

(3) 在外子会社

平成23年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積㎡)	リース資 産	その他		合計
白洋舎イ ンターナ ショナル 株	USA. Hawaii	クリーニ ング	洗濯設備	74	20	466 (3,075.08)		1	562	112 (26)

- (注) 1 帳簿価額の内「その他」は、工具器具及び備品であります。
2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の平均雇用人員であります。
3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年3月30日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	39,000,000	39,000,000	東京証券取引所 第1部	単元株式数 1,000株
計	39,000,000	39,000,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
昭和61年3月1日(注)	9,000,000	39,000,000	910	2,410	606	1,436

(注) 無償株主割当(1:0.1)

(6) 【所有者別状況】

平成23年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		36	13	110	17	1	2,354	2,531	
所有株式数 (単元)		14,051	118	8,929	501	7	15,146	38,752	248,000
所有株式数 の割合(%)		36.25	0.30	23.04	1.29	0.01	39.08	100.00	

(注) 1 自己株式119,223株は「個人その他」の欄に119単元及び「単元未満株式の状況」に223株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成23年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
平賀 秀夫	岡山県岡山市南区	2,020	5.18
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13-1	2,000	5.13
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3-3	1,824	4.68
東京ホールセール株式会社	東京都府中市寿町3丁目10-20	1,789	4.59
株式会社大丸松坂屋百貨店	東京都江東区木場2丁目18-11	1,713	4.39
朝日生命保険相互会社	東京都千代田区大手町2丁目6-1	1,635	4.19
日新火災海上保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台2丁目3	1,450	3.72
株式会社損害保険ジャパン	東京都新宿区西新宿1丁目26-1	1,165	2.99
住友信託銀行株式会社	大阪府大阪市中央区北浜4丁目5-33	1,076	2.76
株式会社廣瀬商会	東京都中央区日本橋3丁目1-17	1,050	2.69
計		15,722	40.31

(注)第一生命保険(株)は、上記の他に第一生命保険(株)特別勘定年金口として2千株所有しています。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 119,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
	(相互保有株式) 普通株式 300,000		同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 38,333,000	38,333	同上
単元未満株式	普通株式 248,000		同上
発行済株式総数	39,000,000		
総株主の議決権		38,333	

(注) 1. 単元未満株式には当社所有の自己株式223株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株白洋舎	東京都渋谷区神山町 4番14号	119,000		119,000	0.31
(相互保有株式) 恒隆白洋舎有限公司	4/F, Flat A, Eldex Building, 21 Ma Tau Wei Road, Hong Kong		300,000	300,000	0.77
計		119,000	300,000	419,000	1.07

(注) 1. 他人名義で所有している理由等

所有理由	名義人の氏名又は名称	名義人の住所
実質株主が外国人であるため	ダイワキャピタルマーケットズホンコンリ ミテッドクライアントセーフキーピング アカウント	ATT:SETTLEMENT DEPT LEVEL 26, ONE PACIFIC PLACE 88 QUEENSWAY HONG KONG

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	5,406	1
当期間における取得自己株式	396	0

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(百万円)	株式数(株)	処分価額の総額(百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他()				
保有自己株式数	119,223		119,619	

(注) 当期間には、平成24年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

利益配分は、業績に対応して安定的に配当することを基本としつつ、長期的な事業展開に必要な内部留保の充実に努めます。

内部留保金は、営業拠点拡充・生産設備・研究開発への投資等に充当いたします。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当社は、「取締役会の決議によって、毎年6月30日を基準日として、中間配当を行うことが出来る。」旨を定款に定めております。

当事業年度の期末配当につきましては、業績に対応して安定的に配当する基本方針のもと、1株につき2円50銭としております。

中間配当1円50銭を含めると、年間配当は1株につき4円となります。

なお、当事業年度の配当は、以下の通りであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成23年7月29日 取締役会 決議	58	1.5
平成24年3月29日 定時株主総会 決議	97	2.5

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第115期	第116期	第117期	第118期	第119期
決算年月	平成19年12月	平成20年12月	平成21年12月	平成22年12月	平成23年12月
最高(円)	370	353	298	281	233
最低(円)	298	247	245	221	176

(注) 株価は東京証券取引所第一部の市場相場であります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	207	207	214	216	218	222
最低(円)	197	191	199	204	200	208

(注) 株価は東京証券取引所第一部の市場相場であります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		五十嵐 素一	昭和33年7月14日生	昭和57年4月 ㈱第一勧業銀行へ入行 昭和62年4月 当社へ入社 平成元年3月 取締役就任 平成元年4月 東京支店長 平成2年3月 専務取締役 平成11年3月 代表取締役専務取締役 平成14年3月 代表取締役社長(現任)	注7	313
代表取締役 専務	本社管理業務 統括	有馬 幸憲	昭和23年3月31日生	平成10年6月 ㈱第一勧業銀行東新宿支店長 平成12年4月 当社へ入社 本社人事部付部長 平成13年3月 取締役就任 平成14年3月 常務取締役 平成15年3月 本社業務統括担当 平成18年3月 代表取締役常務取締役 平成20年3月 代表取締役専務取締役(現任) 平成20年3月 レンタル事業本部担当兼クリーン サービス事業本部担当 平成23年3月 本社管理業務統括(現任)	注7	19
常務取締役	工場部担当兼 洗濯科学研 究所長	佐藤 俊行	昭和22年9月29日生	昭和41年4月 当社へ入社 平成13年3月 横浜支店長 平成16年3月 常勤監査役就任 平成18年3月 取締役就任 内部統制担当 平成19年10月 工場部、洗濯科学研究所担当 平成20年3月 常務取締役(現任) 平成22年8月 工場部担当兼洗濯科学研究所長 (現任)	注9	6
常務取締役	クリーニング 事業本部長	松本 彰	昭和33年3月20日生	昭和56年4月 第一生命保険相互会社へ入社 平成17年4月 同社栃木支社長 平成21年2月 当社人事部長 平成22年4月 執行役員人事部長 平成22年12月 執行役員クリーニング事業本部副 担当 平成23年1月 執行役員クリーニング事業本部担 当 平成23年3月 取締役就任 平成23年3月 クリーニング事業本部長(現任) 平成24年3月 常務取締役(現任)	注7	
取締役		五十嵐 昌治	昭和35年3月23日生	昭和58年4月 当社へ入社 平成13年3月 恒隆白洋舎董事兼総経理 平成16年3月 取締役就任(現任) 平成18年6月 レンタル事業本部副担当兼リネン サプライ事業部長 平成20年5月 米国拠点担当兼白洋舎インターナ ショナル㈱社長 平成23年12月 共同リネンサプライ㈱代表取締役 社長(現任)	注9	226
取締役	大阪支店長	笹川 正剛	昭和31年9月21日生	昭和55年4月 当社へ入社 平成6年2月 広島支店長 平成17年2月 東京支店長 平成20年4月 執行役員東京支店長 平成21年8月 執行役員大阪支店長(現任) 平成23年3月 取締役就任(現任)	注7	10

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	リネンサプライ事業部長兼リネンサプライ千葉事業所長	田中伸	昭和31年10月28日生	昭和55年4月 平成11年3月 平成20年4月 平成23年3月	当社へ入社 リネンサプライ千葉事業所長 執行役員リネンサプライ事業部長兼リネンサプライ千葉事業所長(現任) 取締役就任(現任)	注7	2
取締役	レンタル事業本部長兼ユニフォームレンタル事業部長	井口弥光	昭和32年6月13日生	昭和56年4月 平成10年4月 平成16年12月 平成20年4月 平成23年3月 平成23年4月	当社へ入社 リネンサプライ相模事業所長 レンタル事業本部長 執行役員レンタル事業本部副担当兼ユニフォームレンタル事業部長 取締役就任(現任) レンタル事業本部長兼ユニフォームレンタル事業部長(現任)	注7	3
取締役		堀尾則光	昭和29年1月9日生	昭和53年4月 平成17年4月 平成19年4月 平成20年3月 平成20年4月	第一生命保険相互会社へ入社 同社執行役員 同社執行役員CS推進部長 当社取締役就任(現任) 第一生命保険相互会社常務執行役員(現任)	注9	
取締役		林俊保	昭和24年2月12日生	昭和47年3月 平成18年5月 平成18年9月 平成19年5月 平成21年1月 平成22年5月 平成23年3月 平成23年7月	(株)松坂屋へ入社 同社執行役員財務経理部長 (株)松坂屋ホールディングス執行役員財務室長 (株)松坂屋執行役員財務経理部長 (株)松坂屋取締役執行役員財務経理部長 同社業務統括室長 (株)大丸取締役 J.フロントリテイリング(株)取締役兼執行役員業務統括部長 当社取締役就任(現任) J.フロントリテイリング(株)取締役兼常務執行役員業務統括部長(現任)	注7	
取締役		隅田正彦	昭和28年8月28日生	昭和51年4月 平成17年4月 平成18年7月 平成19年4月 平成21年3月 平成22年4月 平成23年7月	朝日生命保険相互会社へ入社 同社執行役員総務人事統括部門人事担当副統括部門長 同社取締役執行役員総務人事統括部門長 同社取締役常務執行役員総務人事統括部門長 当社取締役就任(現任) 朝日生命保険相互会社取締役常務執行役員法人営業本部長 同社代表取締役専務執行役員法人営業本部長(現任)	注7	
取締役		廣瀬慶太郎	昭和43年12月19日生	平成3年4月 平成9年5月 平成12年5月 平成14年5月 平成15年5月 平成24年3月	(株)第一勧業銀行へ入行 (株)廣瀬商会へ入社 取締役 同社常務取締役 同社代表取締役専務 同社代表取締役社長(現任) 当社取締役就任(現任)	注9	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		佐藤 裕文	昭和23年3月20日生	昭和45年4月 平成10年2月 平成15年3月	当社へ入社 札幌支店長 常勤監査役就任(現任)	注6	6
常勤監査役		堀越 英昭	昭和25年12月4日生	昭和50年4月 昭和63年3月 平成19年7月 平成21年4月 平成22年12月 平成23年3月	当社へ入社 大阪南支店長 名古屋支店長 執行役員名古屋支店長 執行役員経営企画部付部長 常勤監査役就任(現任)	注6	5
監査役		大須賀 克爾	昭和18年4月2日生	平成8年4月 平成16年12月 平成17年3月 平成18年6月	(株)第一勧業銀行常務取締役 中央不動産(株)副会長執行役員 当社監査役就任(現任) 中央不動産(株)特別顧問	注4	
監査役		後藤 啓二	昭和34年7月30日生	平成15年1月 平成16年8月 平成17年8月 平成18年3月 平成20年7月	愛知県警察本部警務部長 内閣官房内閣参事官 西村ときわ法律事務所入所、第一 東京弁護士会登録 当社監査役就任(現任) 後藤コンプライアンス法律事務所 設立、兵庫弁護士会登録	注5	
監査役		日下 宗仁	昭和26年2月23日生	昭和50年4月 平成15年7月 平成22年8月 平成24年3月	監査法人太田哲三事務所(新日本 有限責任監査法人)へ入所 新日本監査法人(新日本有限責任 監査法人)代表社員 日下公認会計士事務所開設 当社監査役就任(現任)	注8	
合計							591

- (注) 1 取締役 堀尾則光、林俊保、隅田正彦、廣瀬慶太郎は、社外取締役であります。
- 2 監査役 大須賀克爾、後藤啓二、日下宗仁は、社外監査役であります。
- 3 取締役 五十嵐昌治は、代表取締役社長 五十嵐素一の弟であります。
- 4 平成20年12月期に係る定時株主総会終結の時から平成24年12月期に係る定時株主総会終結の時まで
- 5 平成21年12月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年12月期に係る定時株主総会終結の時まで
- 6 平成22年12月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年12月期に係る定時株主総会終結の時まで
- 7 平成22年12月期に係る定時株主総会終結の時から平成24年12月期に係る定時株主総会終結の時まで
- 8 平成23年12月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年12月期に係る定時株主総会終結の時まで
- 9 平成23年12月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年12月期に係る定時株主総会終結の時まで

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

1. 企業統治の体制

- ・当社は監査役設置会社であります。当社は、監査役会を設置し、社外監査役を含めた監査役による監査体制が経営監視機能として有効であると判断し、監査役設置会社形態を採用しております。
- ・取締役会は、当社の規模等に鑑み機動性を重視し、社外取締役4名を含む12名の体制をとっております。取締役会は原則月1回の定例取締役会のほか、必要に応じ臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や、経営に関する重要事項を決定するとともに業務執行の状況を監督しております。
- ・社外取締役は、当社の事業環境に識見を持つ方であり、独立した立場から取締役会に出席するほか、各取締役の業務執行について直接報告を受け、経営の監督にあっております。
- ・当社は取締役会への付議事項の事前審議および取締役会の決定した基本方針に基づき、その業務執行方針・計画・重要な業務の実施等に関する協議機関として常務以上をメンバーとする常務会を原則月2回開催しております。
- ・取締役候補者は代表取締役社長が選定し、取締役会での承認を得た後、株主総会の決議により、取締役に選任しております。

2. 内部統制システムの基本方針

業務の適正を確保するための体制

当社では、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制について、平成18年5月24日の取締役会において、会社法第362条第4項第6号「取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制、業務の適正を確保するための体制」（平成23年6月29日の取締役会において一部追加）の基本方針を決議しております。

決定内容の概要は以下の通りであります。

- ・取締役および使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - イ．取締役及び従業員に法令・定款の遵守を徹底するためコンプライアンス・マニュアルを整備し、企業倫理に則った行動をとるべく「行動規範」を定め、朝礼・会議等の研修により周知徹底と意識の高揚を図る。
 - ロ．内部通報制度を整備し、取締役及び従業員が法令・定款違反行為を発見した場合には、弁護士事務所を窓口とした専用ラインに通報され、公益通報者保護法に基づき適切に対応する体制を確保する。
 - ハ．コンプライアンス担当の取締役が所管する法務コンプライアンス室において、コンプライアンス・マニュアルの整備、内部通報制度の運用状況の検証、その他コンプライアンスについての取組みを推進し、取締役会に定期的に報告する。
- ・取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - イ．職務の執行に係る文書その他の情報につき、当社の社内規程、個人情報管理規程、及びそれに関する管理マニュアルに従い、適切に保存及び管理を行い、必要に応じて運用状

況の検証、各規程の見直しを行う。

ロ．株主総会、取締役会、常務会などの重要議事録は、文書又は電磁的媒体に記録し適切に保存管理する。

・損失の危険の管理に関する規程その他の体制

イ．業務遂行上の各種リスクへの対応は、担当各部・事業本部が中心となり日々注意を払い、危険な兆候を察知したときは速やかに、リスクマネジメント委員会委員長（代表取締役兼務）に報告し対処する。

ロ．全社的な法令定款違反その他の事由に基づく損失の危険に関しては、内部監査室の監査情報、法務コンプライアンス室、リスクマネジメント委員会における情報収集を基に、重大事項は経営陣及び担当部署に報告し対処する。

ハ．代表取締役が委員長を務めるリスクマネジメント委員会において、リスク管理の方針の決定、リスク管理規程の整備、運用状況の検証、その他リスク管理全般に関する事項について審議し、取締役会に定期的に報告する。

・取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

イ．毎月1回の取締役会の開催のほか、常務会は月2回開催し、経営陣の意思疎通を円滑に図るとともに、迅速かつ的確な判断を下す。

ロ．職務の執行に関しては「職務分掌規程」と「稟議規程」により意思決定の対象範囲と決定権者を定め、手続きの適正を確保する。

ハ．内部監査室は公正かつ独立の立場で業務の執行状況を監視し、的確な現状把握と建設的な助言により取締役の職務執行が効率的に行われる体制を確保する。

・当社ならびに子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

イ．当社と子会社とのグループ内でのリスク情報の共有・コンプライアンス遵守の目的から、グループ内部統制委員会を設置する。

ロ．グループ内部統制委員会は、子会社に損失の危険が発生し、これを把握した場合は直ちに危険の内容、損失の程度及び当社への影響等について、当社の取締役会及び担当部署に報告する体制を構築する。

ハ．当社と子会社との間における、利益の付替え、損失の飛ばし等、不適切な取引又は会計処理を防止するため、グループ内部統制委員会は、当社の内部監査室および子会社のこれに相当する部署と十分な情報交換を行う。

・監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

イ．監査役がその職務を補助すべき人材を置くことを求めた場合には、内部監査室員に委嘱するか、内外から各業務を検証できるだけの専門知識を有する人材を、適切に選任するものとする。

・前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項

イ．前号の使用人を置く場合は、当該使用人の業務は監査に係る業務に限定し、他の業務の執行に係る役職を兼務しないこととする。

ロ．当該使用人の任命、人事考課、異動、懲戒については、監査役会の意見を尊重するものとする。

・取締役及び使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制
イ．取締役及び従業員は、「監査役会規則」及び「監査役監査基準」に従い、各監査役の要請に応じて必要な報告及び情報提供を行うものとする。

ロ．前項の報告事項として、主なものは次の通りとする。

- (a) 当社の内部統制システム整備に係る部門の活動状況
- (b) 当社の重要な会計方針、会計基準及びその変更
- (c) 業績及び業績見込みの発表内容、重要開示書類の内容
- (d) 内部通報制度の運用状況及びその内容
- (e) 内部監査室の活動状況
- (f) 違法行為・内部不正・苦情・トラブルなど

・その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

イ．監査役の監査が実効的に行われることを確保するため、各部門が協力し調整合体を保ち監査業務執行を妨げない。

ロ．取締役及び従業員は、監査役からその監査業務執行に関する事項の報告・調査を求められた場合は、速やかに当該事項について報告する体制を確保する。

ハ．監査役会は、代表取締役と定期的に会合を持ち、代表取締役の業務執行方針の確認、会社に対処すべき課題、会社を取り巻くリスクのほか、監査役監査の環境整備状況、監査上の重要課題などについて意見交換するものとする。

・当社の反社会的勢力排除に向けた方針及び反社会的勢力排除に向けた体制の整備状況

イ．反社会的勢力排除に向けた方針

白洋舎グループは、社会に脅威を与える反社会的勢力、団体との一切の関係をもたない。

ロ．反社会的勢力排除に向けた体制の整備状況

公益社団法人警視庁管内特殊暴力防止対策連合会や弁護士等の外部専門機関との密接な連携関係を構築すると共に、行動規範等を通して従業員へ反社会的勢力関係排除の徹底を図る。

本社・各支店・事業所の責任者が管轄する警察署との情報連絡を密に行い、反社会的勢力の動向把握に努める。

必要に応じて、研修会に参加し、悪質な特殊暴力への対応準備を整える。

内部監査及び監査役監査

当社の内部監査体制は、内部監査部門として内部統制部を設置し、会社法および金融商品取引法上の内部統制システムの整備・改善および業務の遂行が、各種法令や、当社の各種規程類および経営計画などに準拠して実施されているか、効果的、効率的に行われているかなどについて調査・チェックし、指導・改善に向けた内部監査を行っております。

監査役会は常勤監査役2名、社外監査役3名の計5名体制をとっております。各監査役は監査役会が定めた監査役監査基準、監査計画および職務分担に基づき、監査業務を誠実に実行いたしております。

社外監査役の内1名は金融機関の役付役員の経験があり、他の1名は公認会計士であり財務・会計に関して相当程度の知見を有しております。

監査役会、内部統制部および会計監査人は必要に応じ相互に情報および意見の交換を行うなど連携を強め、監査品質の質的向上に努めております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は4名であり、社外監査役は3名であります。

社外取締役4名のうち、堀尾則光氏は、第一生命保険㈱の常務執行役員であります。当社は、第一生命保険㈱との間に保険等の取引関係があります。林俊保氏は、J・フロント リテイリング㈱の取締役兼常務執行役員であります。当社は、その子会社の㈱大丸松坂屋百貨店との間に出店および商品購入等の取引関係があります。また、隅田正彦氏は、朝日生命保険(相)の代表取締役専務執行役員であります。当社は、朝日生命保険(相)との間に保険等の取引関係があります。廣瀬慶太郎氏は㈱廣瀬商会の代表取締役社長であります。当社は㈱廣瀬商会との間に製品購入等の取引関係があります。

社外監査役3名のうち、大須賀克爾氏は金融機関の役員や会社経営の経験があります。後藤啓二氏は弁護士として、「コンプライアンス、リスク管理、反社会的勢力対策等の企業法務」に関する豊富な専門的知見を有しております。日下宗仁氏は公認会計士として、高度な専門的知見を有しております。

社外監査役3名について、その経歴等から社外監査役として当社の監査に有用な意見をいただいていると判断しております。また、東京証券取引所に対し、一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員として届け出ております。

役員の報酬等

1. 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)		対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	役員退職慰労 引当金繰入額	
取締役 (社外取締役を除く。)	127	95	31	11
監査役 (社外監査役を除く。)	25	20	4	2
社外役員	30	25	4	8

2. 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

3. 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

4. 役員の報酬等の額の決定に関する方針

取締役および監査役の報酬(賞与含む)につきましては、株主総会の決議により、取締役全員および監査役全員のそれぞれの報酬総額の最高限度額を決定しており、この点で株主の皆様の監視が働く仕組みとなっております。各取締役の報酬額は、取締役会の授権を受けた代表取締役が当社の定める一定の基準に基づき決定し、各監査役の報酬額は、監査役の協議により決定しております。取締役および監査役への退職慰労金は、株主総会の決議に基づき、当社の定める一定の基準に従い相当の範囲内において贈呈しております。

株式の保有状況

1. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数	33銘柄
貸借対照表計上額の合計額	1,744百万円

2. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
(株)みずほフィナンシャルグループ	2,535,510	387	金融機関との安定的取引維持
J.フロントリテイリング(株)	841,912	373	取引先との関係強化
味の素(株)	395,200	334	事業上の関係強化
(株)サカタのタネ	190,000	208	事業上の関係強化
三菱鉛筆(株)	66,000	89	事業上の関係強化
養命酒製造(株)	103,000	81	事業上の関係強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	26,810	77	金融機関との安定的取引維持
藤田観光(株)	172,429	64	取引先との関係強化
帝国繊維(株)	101,000	51	事業上の関係強化
(株)帝国ホテル	23,200	48	取引先との関係強化
富士急行(株)	96,590	40	取引先との関係強化
(株)不二家	200,000	32	事業上の関係強化
東京海上ホールディングス(株)	12,600	30	取引先との関係強化

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
味の素(株)	395,200	365	事業上の関係強化
J.フロントリテイリング(株)	841,000	312	取引先との関係強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	2,535,500	263	金融機関との安定的取引維持
(株)サカタのタネ	190,000	209	事業上の関係強化
三菱鉛筆(株)	66,000	91	事業上の関係強化
養命酒製造(株)	103,000	74	事業上の関係強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	26,800	57	金融機関との安定的取引維持
帝国繊維(株)	101,000	48	事業上の関係強化
富士急行(株)	96,375	43	取引先との関係強化
藤田観光(株)	172,000	43	取引先との関係強化
(株)帝国ホテル	23,200	41	取引先との関係強化
(株)不二家	200,000	32	事業上の関係強化
東京海上ホールディングス(株)	12,600	21	取引先との関係強化
(株)三越伊勢丹ホールディングス	23,800	19	取引先との関係強化
(株)オリエンタルランド	1,000	8	事業上の関係強化
(株)サークルKサンクス	4,230	5	取引先との関係強化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	14,000	3	金融機関との安定的取引維持
ユニチカ(株)	75,099	3	事業上の関係強化
(株)ビケンテクノ	4,842	2	取引先との関係強化
伊藤忠テクノソリューションズ(株)	600	2	取引先との関係強化
ロイヤルホールディングス(株)	1,700	1	取引先との関係強化
蝶理(株)	12,000	1	事業上の関係強化
京浜急行電鉄(株)	1,341	0	取引先との関係強化
サッポロホールディングス(株)	3,000	0	事業上の関係強化
イヌイ倉庫(株)	1,300	0	事業上の関係強化

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	833,000	272	当社が所有していた株式を退職給付信託として委託した信託財産であり、議決権については当社の指図により行使されることになっております。
ライオン(株)	331,000	150	
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	448,000	101	
(株)大和証券グループ本社	101,000	24	

(注)貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。

3. 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

当社は、新日本有限責任監査法人と監査契約を締結し同監査法人が会社法および金融商品取引法に基づく会計監査を実施しております。

・業務を執行した公認会計士及び継続監査年数

指定有限責任社員 業務執行社員 永澤 宏一氏(継続監査年数2年)

指定有限責任社員 業務執行社員 諏訪部 修氏(継続監査年数5年)

・監査業務に係る補助者の構成

公認会計士・・・9名 その他・・・9名

取締役会で決議できる株主総会決議事項

1. 自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を

機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

2. 中間配当

当社は、取締役会の決議により、毎年6月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、中間配当をすることができる旨、定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役および社外監査役との間に、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しております。ただし、当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令が規定する額としております。

取締役の定数

当社の取締役は19名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、当該株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	64		58	
連結子会社				
計	64		58	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度(自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社は監査公認会計士等に対する監査報酬を決定するにあたり、監査公認会計士等より提示される監査計画の内容をもとに、監査工数等の妥当性を勘案、協議し、会社法第399条に基づき、監査役会の同意を得た上で決定することとしています。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号、以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度(自平成22年1月1日 至平成22年12月31日)は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度(自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前事業年度(自平成22年1月1日 至平成22年12月31日)は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度(自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度(自平成22年1月1日 至平成22年12月31日)及び前事業年度(自平成22年1月1日 至平成22年12月31日)並びに当連結会計年度(自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)及び当事業年度(自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)の連結財務諸表及び財務諸表について、新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、連結財務諸表等に反映できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成22年12月31日)	当連結会計年度 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	556	852
受取手形及び売掛金	4 3,832	4 3,782
たな卸資産	1 4,596	1 4,317
繰延税金資産	322	367
その他	563	592
貸倒引当金	27	18
流動資産合計	9,843	9,895
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2 18,075	2 18,233
減価償却累計額	11,904	-
減価償却累計額及び減損損失累計額	-	12,422
建物及び構築物（純額）	6,171	5,810
機械装置及び運搬具	2 8,146	2 8,045
減価償却累計額	7,154	-
減価償却累計額及び減損損失累計額	-	7,113
機械装置及び運搬具（純額）	992	932
工具、器具及び備品	1,998	1,972
減価償却累計額	1,810	-
減価償却累計額及び減損損失累計額	-	1,827
工具、器具及び備品（純額）	188	144
土地	2 6,293	2 5,957
リース資産	581	968
減価償却累計額	76	-
減価償却累計額及び減損損失累計額	-	193
リース資産（純額）	505	774
建設仮勘定	8	3
有形固定資産合計	14,160	13,622
無形固定資産		
のれん	77	-
その他	379	299
無形固定資産合計	456	299
投資その他の資産		
投資有価証券	2, 3 2,341	2, 3 2,105
長期貸付金	13	12
差入保証金	1,990	1,896
繰延税金資産	1,662	1,480
その他	3 106	87
貸倒引当金	100	97

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成22年12月31日)	当連結会計年度 (平成23年12月31日)
投資その他の資産合計	6,013	5,485
固定資産合計	20,630	19,407
資産合計	30,474	29,302
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,666	2,517
短期借入金	² 4,008	² 3,849
1年内返済予定の長期借入金	² 4,248	^{2, 5} 2,850
1年内償還予定の社債	50	25
リース債務	305	367
未払法人税等	231	108
賞与引当金	200	179
役員賞与引当金	1	-
株主優待引当金	30	18
災害損失引当金	-	11
預り金	1,180	1,112
その他	1,414	1,394
流動負債合計	14,337	12,433
固定負債		
社債	65	40
長期借入金	² 3,821	^{2, 5} 5,862
リース債務	1,235	1,307
退職給付引当金	2,939	2,323
役員退職慰労引当金	240	239
環境対策引当金	35	33
繰延税金負債	68	61
資産除去債務	-	190
その他	1,375	1,328
固定負債合計	9,781	11,388
負債合計	24,118	23,822

	前連結会計年度 (平成22年12月31日)	当連結会計年度 (平成23年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,410	2,410
資本剰余金	1,496	1,496
利益剰余金	2,249	1,578
自己株式	225	229
株主資本合計	5,931	5,255
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	67	72
為替換算調整勘定	180	208
その他の包括利益累計額合計	112	281
少数株主持分	537	505
純資産合計	6,356	5,480
負債純資産合計	30,474	29,302

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 1月 1 日 至 平成22年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 1月 1 日 至 平成23年12月31日)
売上高	44,270	42,780
売上原価	38,673	37,189
売上総利益	5,596	5,590
販売費及び一般管理費		
運搬費	816	836
役員報酬	275	315
給料手当及び賞与	1,696	1,759
退職給付費用	164	160
役員退職慰労引当金繰入額	26	51
賞与引当金繰入額	32	30
株主優待引当金繰入額	23	11
減価償却費	135	131
のれん償却額	109	80
その他	1,807	1,837
販売費及び一般管理費合計	<u>1 5,089</u>	<u>1 5,216</u>
営業利益	507	374
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	53	54
持分法による投資利益	46	29
保険配当金	42	37
受取補償金	102	60
その他	143	107
営業外収益合計	<u>389</u>	<u>289</u>
営業外費用		
支払利息	287	265
シンジケートローン手数料	-	49
為替差損	41	49
その他	123	21
営業外費用合計	<u>452</u>	<u>385</u>
経常利益	<u>444</u>	<u>278</u>
特別利益		
固定資産売却益	<u>3 100</u>	<u>3 23</u>
投資有価証券売却益	-	167
貸倒引当金戻入額	2	7
退職給付引当金戻入額	-	92
株式割当益	89	-
負ののれん発生益	114	55
その他	4	-
特別利益合計	<u>312</u>	<u>346</u>

	前連結会計年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
特別損失		
固定資産処分損	2 28	2 56
投資有価証券評価損	2	11
減損損失	-	4 347
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	157
災害による損失	-	79
その他	4	10
特別損失合計	35	663
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	720	38
法人税、住民税及び事業税	282	183
法人税等調整額	169	196
法人税等合計	452	380
少数株主損益調整前当期純損失()	-	418
少数株主利益	49	96
当期純利益又は当期純損失()	219	515

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
少数株主損益調整前当期純損失 ()	-	418
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	142
為替換算調整勘定	-	10
持分法適用会社に対する持分相当額	-	19
その他の包括利益合計	-	2 172
包括利益	-	1 591
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	-	684
少数株主に係る包括利益	-	93

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	2,410	2,410
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,410	2,410
資本剰余金		
前期末残高	1,496	1,496
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,496	1,496
利益剰余金		
前期末残高	2,224	2,249
当期変動額		
剰余金の配当	194	155
当期純利益又は当期純損失()	219	515
当期変動額合計	24	671
当期末残高	2,249	1,578
自己株式		
前期末残高	217	225
当期変動額		
自己株式の取得	7	4
当期変動額合計	7	4
当期末残高	225	229
株主資本合計		
前期末残高	5,913	5,931
当期変動額		
剰余金の配当	194	155
当期純利益又は当期純損失()	219	515
自己株式の取得	7	4
当期変動額合計	17	675
当期末残高	5,931	5,255

	前連結会計年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	109	67
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	42	140
当期変動額合計	42	140
当期末残高	67	72
為替換算調整勘定		
前期末残高	160	180
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	20	28
当期変動額合計	20	28
当期末残高	180	208
その他の包括利益累計額合計		
前期末残高	51	112
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	61	168
当期変動額合計	61	168
当期末残高	112	281
少数株主持分		
前期末残高	471	537
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	66	31
当期変動額合計	66	31
当期末残高	537	505
純資産合計		
前期末残高	6,333	6,356
当期変動額		
剰余金の配当	194	155
当期純利益又は当期純損失（ ）	219	515
自己株式の取得	7	4
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	5	200
当期変動額合計	23	875
当期末残高	6,356	5,480

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失（ ）	720	38
減価償却費	1,008	1,034
減損損失	-	347
のれん償却額	109	80
負ののれん発生益	114	55
有形固定資産除却損	24	34
有形固定資産売却損益（ は益）	99	8
無形固定資産除却損	2	6
貸倒引当金の増減額（ は減少）	28	11
賞与引当金の増減額（ は減少）	16	21
株主優待引当金の増減額（ は減少）	0	-
退職給付引当金の増減額（ は減少）	612	615
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	17	0
環境対策引当金の増減額（ は減少）	6	-
災害損失	-	79
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	157
受取利息及び受取配当金	54	55
支払利息	287	265
為替差損益（ は益）	38	49
持分法による投資損益（ は益）	46	29
投資有価証券評価損益（ は益）	2	11
投資有価証券売却損益（ は益）	0	165
長期前払費用除却損	0	0
株式割当益	89	-
売上債権の増減額（ は増加）	101	49
たな卸資産の増減額（ は増加）	194	334
仕入債務の増減額（ は減少）	457	147
未払消費税等の増減額（ は減少）	40	11
その他	62	177
小計	1,083	1,136
利息及び配当金の受取額	58	60
利息の支払額	288	256
災害損失の支払額	-	68
法人税等の還付額	-	48
法人税等の支払額	291	349
営業活動によるキャッシュ・フロー	561	571

	前連結会計年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	12	-
定期預金の預入による支出	5	7
短期貸付けによる支出	51	52
短期貸付金の回収による収入	55	49
長期貸付金の回収による収入	6	2
有形固定資産の取得による支出	560	434
有形固定資産の売却による収入	151	66
無形固定資産の取得による支出	135	50
投資有価証券の取得による支出	5	10
投資有価証券の売却による収入	89	187
子会社株式の取得による支出	5	70
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	10	-
その他	18	89
投資活動によるキャッシュ・フロー	455	230
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	4,429	10,844
短期借入金の返済による支出	3,545	10,882
長期借入れによる収入	1,640	4,980
長期借入金の返済による支出	2,262	4,321
社債の償還による支出	120	50
自己株式の取得による支出	6	1
リース債務の返済による支出	224	334
子会社の自己株式の取得による支出	35	-
配当金の支払額	194	155
少数株主への配当金の支払額	4	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	323	77
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	5
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	215	412
現金及び現金同等物の期首残高	630	414
現金及び現金同等物の期末残高	414	827

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

<p>前連結会計年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日</p>	<p>当連結会計年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日</p>
<p>1 連結の範囲に関する事項</p> <p>(1) 連結子会社の数は11社であります。 主要な連結子会社の名称 共同リネンサプライ㈱ 栄リネンサプライ㈱</p> <p>前連結会計年度において持分法適用の関連会社でありました北洋リネンサプライ㈱は、株式の取得に伴い当連結会計年度より連結子会社となりました。なお、みなし取得日を当連結会計年度末としているため、貸借対照表のみを連結しております。</p> <p>(2) 主要な非連結子会社の名称等 マルハククリーニング協同組合</p> <p>(3) 非連結子会社について連結の範囲から除いた理由 非連結子会社はいずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純利益及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。</p> <p>2 持分法の適用に関する事項</p> <p>(1) 持分法適用の関連会社は次の2社であります。 東京ホールセール㈱ 恒隆白洋舎有限公司</p> <p>(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社 持分法を適用しない主要な非連結子会社 マルハククリーニング協同組合 持分法を適用しない主要な関連会社 ホワイトプレス㈱</p> <p>(3) 持分法を適用しない理由 持分法非適用会社は、それぞれ連結純利益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法を適用しておりません。</p> <p>3 連結子会社及び持分法適用会社の事業年度に関する事項</p> <p>(1) 連結子会社の決算日は、9月30日であります。 連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p> <p>(2) 持分法適用会社のうち、決算日が異なる会社については、当該会社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。</p>	<p>1 連結の範囲に関する事項</p> <p>(1) 連結子会社の数は12社であります。 主要な連結子会社の名称 共同リネンサプライ㈱ 白洋舎栄リネンサプライ㈱</p> <p>平成23年 1月 4日付で静岡支店を会社分割し、新たに設立した静岡白洋舎㈱に承継いたしました。当連結会計年度より連結の範囲に含めております。 連結子会社であります栄リネンサプライ㈱は平成23年 1月 5日付で社名を白洋舎栄リネンサプライ㈱へ変更いたしました。</p> <p>2 持分法の適用に関する事項</p> <p>(1) 持分法適用の関連会社は次の2社であります。 同左</p> <p>(2) 持分法を適用しない関連会社 持分法を適用しない主要な関連会社 同左</p> <p>(3) 持分法を適用しない理由 同左</p> <p>3 連結子会社及び持分法適用会社の事業年度に関する事項</p> <p>(1) 同左</p> <p>(2) 同左</p>

<p>前連結会計年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日</p>	<p>当連結会計年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日</p>
<p>4 会計処理基準に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有価証券 <ul style="list-style-type: none"> その他有価証券 <ul style="list-style-type: none"> 時価のあるもの <ul style="list-style-type: none"> 決算期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は、総平均法により算定し、評価差額は、全部純資産直入法により処理しております。) 時価のないもの <ul style="list-style-type: none"> 総平均法による原価法 ・たな卸資産 <ul style="list-style-type: none"> 商品.....主として先入先出法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法) 使用中リネン...レンタル営業に使用中の布帛類の評価額で消耗計算はつぎのように行うこととしております。 (当社及び国内連結子会社) イ,ホテルリネン ... 3年定率 ロ,ユニフォームレンタル及びケミサブライ ...一定耐用期間 (在外連結子会社) 購入時に費用処理 	<p>4 会計処理基準に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有価証券 <ul style="list-style-type: none"> その他有価証券 <ul style="list-style-type: none"> 時価のあるもの 同左 時価のないもの 同左 ・たな卸資産 <ul style="list-style-type: none"> 商品.....同左 使用中リネン...同左

<p>前連結会計年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日</p>	<p>当連結会計年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日</p>
<p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 有形固定資産（リース資産を除く） 当社及び国内連結子会社 建物 主として定額法 その他の有形固定資産 主として定率法 なお、主な耐用年数は以下の とおりであります。 建物及び構築物 3年～50年 機械装置及び運搬具 3年～13年 工具、器具及び備品 3年～20年 在外連結子会社 建物 定額法 その他の有形固定資産 定率法 なお、耐用年数は5年から39年 であります。 無形固定資産（リース資産を除く） 当社及び国内連結子会社は、定額法によ っております。 なお、当社及び国内連結子会社における自 社利用のソフトウェアについ ては、社内における利用可能 期間(5年)に基づく定額法を 採用しております。 リース資産 (当社及び国内連結子会社) 所有権移転外ファイナンス・ リース取引に係るリース資産 については、リース期間を耐 用年数とし、残存価額を零 とする定額法によっておりま す。 なお、平成20年12月31日以前 に契約した、リース物件の所 有権が借主に移転すると認め られるもの以外のファイナンス ・リース取引については、 通常の賃貸借取引に係る方法 に準じた会計処理によってお ります。 (在外連結子会社) 当該国の会計原則に基づきフ ァイナンス・リース契約によ るリース資産を有形固定資産 に計上しております。</p>	<p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 有形固定資産（リース資産を除く） 当社及び国内連結子会社 建物 主として定額法 その他の有形固定資産 主として定率法 なお、主な耐用年数は以下の とおりであります。 建物及び構築物 3年～50年 機械装置及び運搬具 3年～13年 工具、器具及び備品 3年～20年 在外連結子会社 建物 同左 その他の有形固定資産 同左 無形固定資産（リース資産を除く） 同左 リース資産 同左</p>

<p>前連結会計年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日</p>	<p>当連結会計年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日</p>
<p>(3) 重要な引当金の計上基準 貸倒引当金 当社及び国内連結子会社は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>a 一般債権.....貸倒実績率法によっております。 b 貸倒懸念債権及び破産更生債権個別の債権の回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>在外連結子会社についても債権の貸倒れによる損失に備えるため、個別の債権回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>賞与引当金 当社及び国内連結子会社は、従業員の賞与の支給に備えて、賞与支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。</p> <p>役員賞与引当金 当社及び国内連結子会社は、役員に支給する賞与の支払に備えるため、当連結会計年度末における支給見込額に基づき計上することとしております。</p> <p>株主優待引当金 将来の株主優待制度の利用に備えるため、株主優待制度の利用実績に基づき、当連結会計年度末における株主優待制度利用見込額を計上しております。</p> <p>退職給付引当金 当社及び国内連結子会社については、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を定額法により費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を定額法により翌連結会計年度より費用処理しております。</p> <p>(会計方針の変更) 「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)(企業会計基準委員会 平成20年7月31日 企業会計基準第19号)を当連結会計年度から適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。</p>	<p>(3) 重要な引当金の計上基準 貸倒引当金 同左</p> <p>賞与引当金 同左</p> <p>株主優待引当金 同左</p> <p>災害損失引当金 東日本大震災により被災した資産の原状回復費用等の支出に備え、発生見込額を計上しております。</p> <p>退職給付引当金 当社及び国内連結子会社については、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を定額法により費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を定額法により翌連結会計年度より費用処理しております。</p>

<p>前連結会計年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日</p>	<p>当連結会計年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日</p>
<p>役員退職慰労引当金 当社及び国内連結子会社は、役員に支給する退職慰労金の支払いに備えるため、当連結会計年度末における役員退職慰労金に関する社内規定に基づく支給見込額に基づき当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>環境対策引当金 将来の環境対策に要する支出（ポリ塩化ビフェニル廃棄物の処理及び土壌改良工事等の環境関連費用）のうち、当連結会計年度において発生していると認められる金額を計上しております。</p> <p>(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準 外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は決算日の直物為替相場により円貨換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めて計上しております。</p>	<p>役員退職慰労引当金 同左</p> <p>環境対策引当金 同左</p> <p>(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準 同左</p>

<p>前連結会計年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日</p>	<p>当連結会計年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日</p>
<p>(5) 重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 特例処理の要件を満たす金利スワップについては、特例処理を採用しております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 (ヘッジ手段) 金利スワップ (ヘッジ対象) 借入金の利息 ヘッジ方針 借入金の金利変動を回避する目的で金利スワップ取引を行なっております。ヘッジ対象の識別は個別契約ごとに行っております。 ヘッジ有効性評価の方法 金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。 その他リスク管理方法のうちヘッジ会計に係るもの 稟議規程に基づき決裁され、取締役会において承認を受けております。</p> <p>(6) のれんの償却方法及び償却期間 のれんの償却については、個別案件ごとに判断し、20年以内の合理的な年数で定期的に償却しております。なお、金額が僅少なれんは、当該勘定が生じた期の費用としております。</p> <p>(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資であります。</p> <p>(8) 消費税等の会計処理方法 当社及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税抜き方式を採用しております。</p> <p>5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。</p>	<p>(5) 重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 同左 ヘッジ手段とヘッジ対象 同左 ヘッジ方針 同左 ヘッジ有効性評価の方法 同左 その他リスク管理方法のうちヘッジ会計に係るもの 同左</p> <p>(6) のれんの償却方法及び償却期間 同左</p> <p>(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 同左</p> <p>(8) 消費税等の会計処理方法 同左</p>

【会計方針の変更】

<p>前連結会計年度 自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日</p>	<p>当連結会計年度 自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日</p>
	<p>「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成20年3月31日 企業会計基準第18号)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成20年3月31日 企業会計基準適用指針第21号)を当連結会計年度から適用しております。 この変更に伴い、従来の方法によった場合と比較して、営業利益及び経常利益はそれぞれ6百万円減少し、税金等調整前当期純損失は157百万円増加しております。</p>
	<p>「持分法に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成20年3月10日公表分 企業会計基準第16号)及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」(企業会計基準委員会 平成20年3月10日 実務対応報告第24号)を当連結会計年度から適用しております。 これによる損益に与える影響はありません。</p>
<p>「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成20年12月26日 企業会計基準第21号)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成20年12月26日 企業会計基準第22号)、「『研究開発費等に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準委員会 平成20年12月26日 企業会計基準第23号)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成20年12月26日 企業会計基準第7号)、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成20年12月26日 企業会計基準第16号)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準委員会 平成20年12月26日 企業会計基準適用指針第10号)を適用しております。</p>	

【表示方法の変更】

前連結会計年度 自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日	当連結会計年度 自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日
	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成20年12月26日 企業会計基準第22号)に基づく財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当連結会計年度では、「少数株主損益調整前当期純損失」の科目で表示しております。
	前連結会計年度において、営業外費用の「その他」に含めて表示しておりました「シンジケートローン手数料」(前連結会計年度6百万円)は、営業外費用総額の10/100を超えたため、当連結会計年度においては区分掲記することとしました。

【追加情報】

前連結会計年度 自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日	当連結会計年度 自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日
	「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を当連結会計年度から適用しております。ただし、「その他の包括利益累計額」及び「その他の包括利益累計額合計」の前連結会計年度の金額は、「評価・換算差額等」及び「評価・換算差額等合計」の金額を記載しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 平成22年12月31日		当連結会計年度 平成23年12月31日																																					
1	<p>たな卸資産の内訳</p> <table border="1"> <tr><td>商品及び製品</td><td>318百万円</td></tr> <tr><td>使用中リネン</td><td>3,060</td></tr> <tr><td>原材料及び貯蔵品</td><td>293</td></tr> <tr><td>リース資産</td><td>924</td></tr> <tr><td>計</td><td>4,596</td></tr> </table>	商品及び製品	318百万円	使用中リネン	3,060	原材料及び貯蔵品	293	リース資産	924	計	4,596	1	<p>たな卸資産の内訳</p> <table border="1"> <tr><td>商品及び製品</td><td>271百万円</td></tr> <tr><td>使用中リネン</td><td>2,972</td></tr> <tr><td>原材料及び貯蔵品</td><td>329</td></tr> <tr><td>リース資産</td><td>745</td></tr> <tr><td>計</td><td>4,317</td></tr> </table>	商品及び製品	271百万円	使用中リネン	2,972	原材料及び貯蔵品	329	リース資産	745	計	4,317																
商品及び製品	318百万円																																						
使用中リネン	3,060																																						
原材料及び貯蔵品	293																																						
リース資産	924																																						
計	4,596																																						
商品及び製品	271百万円																																						
使用中リネン	2,972																																						
原材料及び貯蔵品	329																																						
リース資産	745																																						
計	4,317																																						
2	<p>担保資産及び担保付債務</p> <p>担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table border="1"> <tr><td>土地</td><td>4,314百万円</td></tr> <tr><td>建物及び構築物</td><td>3,160</td></tr> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td>123</td></tr> <tr><td>投資有価証券</td><td>142</td></tr> <tr><td>計</td><td>7,740</td></tr> </table> <p>担保付債務は次のとおりであります。</p> <table border="1"> <tr><td>短期借入金</td><td>3,214百万円</td></tr> <tr><td>1年内返済予定の長期借入金</td><td>2,191</td></tr> <tr><td>長期借入金</td><td>2,646</td></tr> <tr><td>計</td><td>8,051</td></tr> </table>	土地	4,314百万円	建物及び構築物	3,160	機械装置及び運搬具	123	投資有価証券	142	計	7,740	短期借入金	3,214百万円	1年内返済予定の長期借入金	2,191	長期借入金	2,646	計	8,051	2	<p>担保資産及び担保付債務</p> <p>担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <table border="1"> <tr><td>土地</td><td>4,035百万円</td></tr> <tr><td>建物及び構築物</td><td>3,014</td></tr> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td>82</td></tr> <tr><td>投資有価証券</td><td>117</td></tr> <tr><td>計</td><td>7,250</td></tr> </table> <p>担保付債務は次のとおりであります。</p> <table border="1"> <tr><td>短期借入金</td><td>3,113百万円</td></tr> <tr><td>1年内返済予定の長期借入金</td><td>1,470</td></tr> <tr><td>長期借入金</td><td>1,544</td></tr> <tr><td>計</td><td>6,128</td></tr> </table>	土地	4,035百万円	建物及び構築物	3,014	機械装置及び運搬具	82	投資有価証券	117	計	7,250	短期借入金	3,113百万円	1年内返済予定の長期借入金	1,470	長期借入金	1,544	計	6,128
土地	4,314百万円																																						
建物及び構築物	3,160																																						
機械装置及び運搬具	123																																						
投資有価証券	142																																						
計	7,740																																						
短期借入金	3,214百万円																																						
1年内返済予定の長期借入金	2,191																																						
長期借入金	2,646																																						
計	8,051																																						
土地	4,035百万円																																						
建物及び構築物	3,014																																						
機械装置及び運搬具	82																																						
投資有価証券	117																																						
計	7,250																																						
短期借入金	3,113百万円																																						
1年内返済予定の長期借入金	1,470																																						
長期借入金	1,544																																						
計	6,128																																						
3	<p>非連結子会社及び関連会社に係る項目</p> <p>非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。</p> <table border="1"> <tr><td>投資有価証券(株式)</td><td>247百万円</td></tr> <tr><td>その他(投資その他の資産)(出資金)</td><td>4</td></tr> <tr><td>計</td><td>251</td></tr> </table>	投資有価証券(株式)	247百万円	その他(投資その他の資産)(出資金)	4	計	251	3	<p>非連結子会社及び関連会社に係る項目</p> <p>非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。</p> <table border="1"> <tr><td>投資有価証券(株式)</td><td>250百万円</td></tr> <tr><td>計</td><td>250</td></tr> </table>	投資有価証券(株式)	250百万円	計	250																										
投資有価証券(株式)	247百万円																																						
その他(投資その他の資産)(出資金)	4																																						
計	251																																						
投資有価証券(株式)	250百万円																																						
計	250																																						
4	<p>当連結会計年度末日満期手形の処理</p> <p>当連結会計年度末日満期手形は、手形交換日をもって決済処理しております。従って、当連結会計期間末日は、金融機関の休日であったため、当連結会計年度末日満期手形が以下の科目に含まれております。</p> <table border="1"> <tr><td>受取手形</td><td>0百万円</td></tr> </table>	受取手形	0百万円	4	<p>当連結会計年度末日満期手形の処理</p> <p>当連結会計年度末日満期手形は、手形交換日をもって決済処理しております。従って、当連結会計期間末日は、金融機関の休日であったため、当連結会計年度末日満期手形が以下の科目に含まれております。</p> <table border="1"> <tr><td>受取手形</td><td>0百万円</td></tr> </table>	受取手形	0百万円																																
受取手形	0百万円																																						
受取手形	0百万円																																						
		5	<p>財務制限条項</p> <p>借入金のうち、5,500百万円には、純資産の部及び経常損益に係る財務制限条項が付されております。</p>																																				

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日		当連結会計年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日									
1	販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。 51百万円	1	販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。 42百万円								
2	固定資産処分損の内容は、次のとおりであります。 建物及び構築物 7百万円 機械装置及び運搬具 12 工具、器具及び備品 2 リース資産 1 無形固定資産 2 その他(投資その他の資産) 0 計 28	2	固定資産処分損の内容は、次のとおりであります。 建物及び構築物 19百万円 機械装置及び運搬具 11 工具、器具及び備品 3 土地 15 無形固定資産 6 その他(投資その他の資産) 0 計 56								
3	固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。 土地 100百万円 計 100	3	固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。 建物及び構築物 23百万円 計 23								
4		4	減損損失の内容は、次のとおりであります。 当社グループは以下の資産について減損損失を計上いたしました。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>減損損失</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京東支店 東京都葛飾区 千葉支店 千葉県千葉市美浜区</td> <td>クリーニング工場及び店舗</td> <td>建物及び構築物、機械装置及び運搬具、土地、リース資産等</td> <td>347百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社グループは、事業用資産については、支店及び子会社を最小単位としてグルーピングを行っております。</p> <p>当連結会計年度においては、市況の悪化により、東京東支店及び千葉支店に係る資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失として、特別損失に計上いたしました。</p> <p>減損損失347百万円の内訳は、建物及び構築物24百万円、機械装置及び運搬具37百万円、土地251百万円、リース資産22百万円及びその他11百万円であります。</p> <p>なお、当資産グループの回収可能価額は主に使用価値により測定しており、将来キャッシュフローを3%で割り引いて算定しております。</p>	場所	用途	種類	減損損失	東京東支店 東京都葛飾区 千葉支店 千葉県千葉市美浜区	クリーニング工場及び店舗	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、土地、リース資産等	347百万円
場所	用途	種類	減損損失								
東京東支店 東京都葛飾区 千葉支店 千葉県千葉市美浜区	クリーニング工場及び店舗	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、土地、リース資産等	347百万円								

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)

1 当連結会計年度の直前連結会計年度における包括利益	
親会社株主に係る包括利益	157 百万円
少数株主に係る包括利益	45
計	203
2 当連結会計年度の直前連結会計年度におけるその他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	42 百万円
為替換算調整勘定	5
持分法適用会社に対する持分相当額	17
計	65

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成22年 1 月 1 日 至 平成22年12月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	39,000,000			39,000,000
合計	39,000,000			39,000,000
自己株式				
普通株式(注)	639,571	28,747		668,318
合計	639,571	28,747		668,318

(注) 普通株式の自己株式の増加のうち、26,567株は単元未満株式の買取による増加であり、
2,180株は関連会社の自己株式(白洋舎株式)の取得による当社帰属分の増加であります。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年 3 月30日 定時株主総会	普通株式	97	2.5	平成21年12月31日	平成22年 3 月31日

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年 7 月30日 取締役会	普通株式	97	2.5	平成22年 6 月30日	平成22年 9 月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の 原資	1株当 たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年 3 月30日 定時株主総会	普通株式	97	利益剰 余金	2.5	平成22年12月31日	平成23年 3 月31日

当連結会計年度(自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	39,000,000			39,000,000
合計	39,000,000			39,000,000
自己株式				
普通株式(注)	668,318	8,162		676,480
合計	668,318	8,162		676,480

(注) 普通株式の自己株式の増加のうち、5,406株は単元未満株式の買取による増加であり、
2,756株は関連会社の自己株式(白洋舎株式)の取得による当社帰属分の増加であります。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年 3月30日 定時株主総会	普通株式	97	2.5	平成22年12月31日	平成23年 3月31日

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年 7月29日 取締役会	普通株式	58	1.5	平成23年 6月30日	平成23年 9月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の 原資	1株当 たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年 3月29日 定時株主総会	普通株式	97	利益剰 余金	2.5	平成23年12月31日	平成24年 3月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日	当連結会計年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日																		
<p>現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">556百万円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">556</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">20</td> </tr> <tr> <td>負の現金同等物としての当座借越</td> <td style="text-align: right;">120</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">414</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	556百万円	計	556	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	20	負の現金同等物としての当座借越	120	現金及び現金同等物	414	<p>現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">852百万円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">852</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">25</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">827</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	852百万円	計	852	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	25	現金及び現金同等物	827
現金及び預金勘定	556百万円																		
計	556																		
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	20																		
負の現金同等物としての当座借越	120																		
現金及び現金同等物	414																		
現金及び預金勘定	852百万円																		
計	852																		
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	25																		
現金及び現金同等物	827																		
<p>重要な非資金取引の内容</p> <p>当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産の額は 878百万円、負債の額は 926百万円であります。</p>	<p>重要な非資金取引の内容</p> <p>当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産の額は 444百万円、負債の額は 470百万円であります。</p> <p>当連結会計年度に新たに計上した重要な資産除去債務は197百万円であります。</p>																		
<p>株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳</p> <p>株式の一部追加取得により新たに連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳は次のとおりであります。</p> <p>北洋リネンサプライ(株)(平成22年 9月30日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">233百万円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">292</td> </tr> <tr> <td>資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">526</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">153百万円</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">135</td> </tr> <tr> <td>負債合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">289</td> </tr> </table>	流動資産	233百万円	固定資産	292	資産合計	526	流動負債	153百万円	固定負債	135	負債合計	289							
流動資産	233百万円																		
固定資産	292																		
資産合計	526																		
流動負債	153百万円																		
固定負債	135																		
負債合計	289																		

(リース取引関係)

前連結会計年度 自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日					当連結会計年度 自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日						
リース取引に関する平成20年12月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引 (借主側) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額					リース取引に関する平成20年12月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引 (借主側) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額						
	使用中 リネン(百 万円)	有形固定資産		無形 固定資産	合計 (百万円)		使用中 リネン(百 万円)	有形固定資産		無形 固定資産	合計 (百万円)
		機械装置 及び運搬具 (百万円)	工具、器 具及び 備品 (百万円)	ソフト ウェア (百万円)				機械装置 及び運搬具 (百万円)	工具、器 具及び 備品 (百万円)	ソフト ウェア (百万円)	
取得価額 相当額	469	1,143	417	15	2,046	取得価額 相当額	33	911	263	5	1,214
減価償却 累計額相 当額	427	696	291	11	1,427	減価償却 累計額相 当額	27	705	212	4	949
期末残高 相当額	42	446	125	3	618	期末残高 相当額	6	206	50	0	264
未経過リース料期末残高相当額					未経過リース料期末残高相当額						
1年以内					364百万円	1年以内					165百万円
1年超					286	1年超					116
合計					650	合計					281
支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額					支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額						
支払リース料					618百万円	支払リース料					370百万円
減価償却費相当額					598	減価償却費相当額					351
支払利息相当額					27	支払利息相当額					14
減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法					減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法						
減価償却費相当額の算定方法					減価償却費相当額の算定方法						
・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。					・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。						
利息相当額の算定方法					利息相当額の算定方法						
・リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。					・リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。						
(減損損失について)					(減損損失について)						
リース資産に配分された減損損失はありませんので、項目等の記載は省略しております。					リース資産に配分された減損損失はありませんので、項目等の記載は省略しております。						

前連結会計年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日	当連結会計年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日								
<p>1. ファイナンス・リース取引 (借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 (1) リース資産の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流動資産 レンタル事業における使用中リネンであります。 ・有形固定資産 クリーニング機械(機械及び装置)等であります。 ・無形固定資産 ソフトウェアであります。 <p>(2) リース資産の減価償却の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。 <p>2. オペレーティング・リース取引 (借主側) オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料 百万円</p> <p>(追加情報) オペレーティング・リース取引の注記については、従来、注記を要しない重要性の乏しい取引を含めて開示しておりましたが、当連結会計年度から注記を要しない重要性の乏しい取引を含めずに開示しております。 なお、従来の方方法によった場合は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未経過リース料</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">1年以内</td> <td style="text-align: right;">89百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">1年超</td> <td style="text-align: right;">71</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">161</td> </tr> </table>	未経過リース料		1年以内	89百万円	1年超	71	合計	161	<p>1. ファイナンス・リース取引 (借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 (1) リース資産の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流動資産 レンタル事業における使用中リネンであります。 ・有形固定資産 クリーニング機械(機械及び装置)等であります。 ・無形固定資産 ソフトウェアであります。 <p>(2) リース資産の減価償却の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。
未経過リース料									
1年以内	89百万円								
1年超	71								
合計	161								

(金融商品関係)

前連結会計年度(自平成22年1月1日至平成22年12月31日)

(追加情報)

当連結会計年度から平成20年3月10日公表の「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準委員会企業会計基準第10号)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準委員会企業会計基準適用指針第19号)を適用しております。

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組指針

当社及び連結子会社は、調達コストとリスク分散の観点による長期と短期のバランスを見ながら、普通社債及び金融機関からの借入等による資金調達を行っております。資金運用については預金等、安全性の高い金融商品に限定しております。デリバティブ取引は、後述するリスクのヘッジを目的としております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。また借入金のうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されていますが、金利スワップ取引を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、金利変動リスクを低減する目的のみに限定しております。

取引の利用目的は長期借入金の支払利息に係る金利上昇の影響を回避、または一定の枠内にとどめる目的において利用しております。

なお、特例処理の要件を満たす金利スワップについてはヘッジ会計を行っております。ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、営業債権について、各事業部門又は営業管理部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクにさらされる金融資産の貸借対照表価額により表わされています。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社及び一部の連結子会社は、借入金等に係る金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引については、契約先は信用度の高い国内銀行であり、相手先の契約不履行によるリスクはほとんどないと判断しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社及び主な国内連結子会社は、連結有利子負債の削減及び参加会社における流動性リスク低減のため、キャッシュマネジメントシステムを導入していることから、当該システム参加会社の流動性リスクの管理については、幹事会社である当社が行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、(デリバティブ取引関係)におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結決算日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。重要性の乏しいものは省略しております。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。(注) 2 参照)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
現金及び預金	556	556	
受取手形及び売掛金	3,832	3,832	
投資有価証券	1,940	1,940	
差入保証金	1,990		
貸倒引当金 1	68		
	1,922	1,920	1
資産計	8,251	8,249	1
支払手形及び買掛金	2,666	2,666	
短期借入金	4,008	4,008	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを含む。)	8,070	8,112	41
リース債務(1年以内に返済予定のものを含む。)	1,540	1,555	14
負債計	16,285	16,342	56
デリバティブ取引			

1 差入保証金に対する個別貸倒引当金を控除しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

現金及び預金

預金は全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。

差入保証金

差入保証金の時価の算定は、一定の期間ごとに分類し、適切な指標の利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

支払手形及び買掛金、短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

長期借入金（1年以内に返済予定のものを含む。）

長期借入金の時価の算定は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

リース債務（1年以内に返済予定のものを含む。）

リース債務の時価の算定は、元利金の合計額を、同様の新規リースを行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
非上場株式	153
非連結子会社及び関連会社の株式	247
合計	400

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超5年 以内 (百万円)	5年超10年 以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	556			
受取手形及び売掛金	3,832			
差入保証金	995	875	86	32
合計	5,384	875	86	32

(注) 4 社債、長期借入金、リース債務及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (百万円)	1年超2年 以内 (百万円)	2年超3年 以内 (百万円)	3年超4年 以内 (百万円)	4年超5年 以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債(1年以内償還予定のものを 含む。)	50	25	20	20		
長期借入金(1年以内返済予定の ものを含む。)	4,248	2,442	728	446	65	138
リース債務(流動負債を含む。)	305	310	315	294	128	186
合計	4,603	2,778	1,064	761	193	324

その他有利子負債の従業員預り金は返済期限を定めておりません。

当連結会計年度（自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日）

1 金融商品の状況に関する事項

（１）金融商品に対する取組指針

当社及び連結子会社は、調達コストとリスク分散の観点による長期と短期のバランスを見ながら、普通社債及び金融機関からの借入等による資金調達を行っております。資金運用については預金等、安全性の高い金融商品に限定しております。デリバティブ取引は、後述するリスクのヘッジを目的としております。

（２）金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんど 1年以内の支払期日であります。また借入金のうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されていますが、金利スワップ取引を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、金利変動リスクを低減する目的のみに限定しております。

取引の利用目的は長期借入金の支払利息に係る金利上昇の影響を回避、または一定の枠内にとどめる目的において利用しております。

なお、特例処理の要件を満たす金利スワップについてはヘッジ会計を行っております。ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

（３）金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権について、各事業部門又は営業管理部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクにさらされる金融資産の貸借対照表価額により表わされています。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社及び一部の連結子会社は、借入金等に係る金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引については、契約先は信用度の高い国内銀行であり、相手先の契約不履行によるリスクはほとんどないと判断しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社及び主な国内連結子会社は、連結有利子負債の削減及び参加会社における流動性リスク低減のため、キャッシュマネジメントシステムを導入していることから、当該システム参加会社の流動性リスクの管理については、幹事会社である当社が行っております。

（４）金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された

価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、（デリバティブ取引関係）におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結決算日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。重要性の乏しいものは省略しております。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。（（注）2 参照）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
現金及び預金	852	852	
受取手形及び売掛金	3,782	3,782	
投資有価証券 その他有価証券	1,712	1,712	
差入保証金	1,896		
貸倒引当金 1	90		
	1,805	1,808	2
資産計	8,154	8,156	2
支払手形及び買掛金	2,517	2,517	
短期借入金	3,849	3,849	
長期借入金（1年以内に返済予定のものを含む。）	8,713	8,747	34
リース債務（1年以内に返済予定のものを含む。）	1,675	1,689	14
負債計	16,755	16,803	48
デリバティブ取引			

1 差入保証金に対する個別貸倒引当金を控除しております。

（注）1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

現金及び預金

預金は全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。

差入保証金

差入保証金の時価の算定は、一定の期間ごとに分類し、適切な指標の利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

支払手形及び買掛金、短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

長期借入金（1年以内に返済予定のものを含む。）

長期借入金の時価の算定は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

リース債務（1年以内に返済予定のものを含む。）

リース債務の時価の算定は、元利金の合計額を、同様の新規リースを行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
非上場株式	142

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超5年 以内 (百万円)	5年超10年 以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	852			
受取手形及び売掛金	3,782			
差入保証金	747	1,046	75	27
合計	5,382	1,046	75	27

(注) 4 社債、長期借入金、リース債務及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (百万円)	1年超2年 以内 (百万円)	2年超3年 以内 (百万円)	3年超4年 以内 (百万円)	4年超5年 以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債(1年以内償還予定のものを 含む。)	25	20	20			
長期借入金(1年以内返済予定の ものを含む。)	2,850	1,450	1,161	779	2,361	110
リース債務(流動負債を含む。)	367	373	346	182	121	282
合計	3,243	1,843	1,528	962	2,482	393

その他有利子負債の従業員預り金は返済期限を定めておりません。

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成22年12月31日現在)

1 その他有価証券

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	1,397	1,110	286
小計	1,397	1,110	286
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	543	658	115
小計	543	658	115
合計	1,940	1,769	171

(注) 非上場株式153百万円、非連結子会社及び関連会社の株式247百万円については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「株式」には含めておりません。

2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

売却損益の合計額の金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

3 当連結会計年度に減損処理を行ったその他有価証券

当連結会計年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損2百万円を計上しております。

当連結会計年度(平成23年12月31日現在)

1 その他有価証券

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	535	329	206
小計	535	329	206
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	1,177	1,440	262
小計	1,177	1,440	262
合計	1,712	1,769	56

(注) 非上場株式142百万円については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「株式」には含めておりません。

2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

区分	当連結会計年度 自平成23年1月1日 至平成23年12月31日
株式の売却額(百万円)	187
株式の売却益の合計額(百万円)	167
株式の売却損の合計額(百万円)	1

3 当連結会計年度に減損処理を行ったその他有価証券

当連結会計年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損11百万円を計上しております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額のうち1年 超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの 特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取流動	長期借入金	6,355	2,720	(注)

(注)金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額のうち1年 超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの 特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取流動	長期借入金	7,220	4,979	(注)

(注)金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

[次へ](#)

(退職給付関係)

前連結会計年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日	当連結会計年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日																								
<p>1 採用している退職給付制度の概要</p> <p>企業年金 : 確定給付企業年金(規約型)を採用しております。</p> <p>退職一時金 : 退職金規程に基づく退職一時金制度を採用しております。</p> <p>なお、従業員の退職等に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。</p>	<p>1 採用している退職給付制度の概要</p> <p>企業年金 : 確定給付企業年金(規約型)を採用しております。</p> <p>退職一時金 : 退職金規程に基づく退職一時金制度を採用しております。</p> <p>なお、従業員の退職等に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。</p>																								
<p>2 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">8,755百万円</td> </tr> <tr> <td>年金資産</td> <td style="text-align: right;">4,645</td> </tr> <tr> <td>(退職給付信託を含む)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>未認識過去勤務債務</td> <td style="text-align: right;">881</td> </tr> <tr> <td>未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">2,052</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,939</td> </tr> </table> <p>(注) 国内連結子会社においては、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。</p>	退職給付債務	8,755百万円	年金資産	4,645	(退職給付信託を含む)		未認識過去勤務債務	881	未認識数理計算上の差異	2,052	退職給付引当金	2,939	<p>2 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">8,351百万円</td> </tr> <tr> <td>年金資産</td> <td style="text-align: right;">4,685</td> </tr> <tr> <td>(退職給付信託を含む)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>未認識過去勤務債務</td> <td style="text-align: right;">646</td> </tr> <tr> <td>未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">1,989</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,323</td> </tr> </table> <p>(注) 国内連結子会社においては、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。</p>	退職給付債務	8,351百万円	年金資産	4,685	(退職給付信託を含む)		未認識過去勤務債務	646	未認識数理計算上の差異	1,989	退職給付引当金	2,323
退職給付債務	8,755百万円																								
年金資産	4,645																								
(退職給付信託を含む)																									
未認識過去勤務債務	881																								
未認識数理計算上の差異	2,052																								
退職給付引当金	2,939																								
退職給付債務	8,351百万円																								
年金資産	4,685																								
(退職給付信託を含む)																									
未認識過去勤務債務	646																								
未認識数理計算上の差異	1,989																								
退職給付引当金	2,323																								
<p>3 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">勤務費用(注)</td> <td style="text-align: right;">353百万円</td> </tr> <tr> <td>利息費用</td> <td style="text-align: right;">169</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>過去勤務債務の収益処理額</td> <td style="text-align: right;">235</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">436</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">724</td> </tr> </table> <p>(注) 国内連結子会社の簡便法による退職給付費用は、勤務費用に計上しております。</p>	勤務費用(注)	353百万円	利息費用	169	期待運用収益	0	過去勤務債務の収益処理額	235	数理計算上の差異の費用処理額	436	退職給付費用	724	<p>3 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">勤務費用(注)</td> <td style="text-align: right;">355百万円</td> </tr> <tr> <td>利息費用</td> <td style="text-align: right;">166</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>過去勤務債務の収益処理額</td> <td style="text-align: right;">235</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">437</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">724</td> </tr> </table> <p>(注) 国内連結子会社の簡便法による退職給付費用は、勤務費用に計上しております。</p>	勤務費用(注)	355百万円	利息費用	166	期待運用収益	0	過去勤務債務の収益処理額	235	数理計算上の差異の費用処理額	437	退職給付費用	724
勤務費用(注)	353百万円																								
利息費用	169																								
期待運用収益	0																								
過去勤務債務の収益処理額	235																								
数理計算上の差異の費用処理額	436																								
退職給付費用	724																								
勤務費用(注)	355百万円																								
利息費用	166																								
期待運用収益	0																								
過去勤務債務の収益処理額	235																								
数理計算上の差異の費用処理額	437																								
退職給付費用	724																								
<p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">割引率</td> <td style="text-align: right;">2.1%</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益率</td> <td style="text-align: right;">0%</td> </tr> <tr> <td>退職給付見込額の期間配分方法</td> <td style="text-align: right;">期間定額基準</td> </tr> <tr> <td>過去勤務債務の処理年数</td> <td style="text-align: right;">10年</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の処理年数</td> <td style="text-align: right;">11年</td> </tr> </table>	割引率	2.1%	期待運用収益率	0%	退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	過去勤務債務の処理年数	10年	数理計算上の差異の処理年数	11年	<p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">割引率</td> <td style="text-align: right;">2.1%</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益率</td> <td style="text-align: right;">0%</td> </tr> <tr> <td>退職給付見込額の期間配分方法</td> <td style="text-align: right;">期間定額基準</td> </tr> <tr> <td>過去勤務債務の処理年数</td> <td style="text-align: right;">10年</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の処理年数</td> <td style="text-align: right;">11年</td> </tr> </table>	割引率	2.1%	期待運用収益率	0%	退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	過去勤務債務の処理年数	10年	数理計算上の差異の処理年数	11年				
割引率	2.1%																								
期待運用収益率	0%																								
退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準																								
過去勤務債務の処理年数	10年																								
数理計算上の差異の処理年数	11年																								
割引率	2.1%																								
期待運用収益率	0%																								
退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準																								
過去勤務債務の処理年数	10年																								
数理計算上の差異の処理年数	11年																								

(税効果会計関係)

前連結会計年度 平成22年12月31日	当連結会計年度 平成23年12月31日																																																																																																																																																
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">84百万円</td></tr> <tr><td>株主優待引当金</td><td style="text-align: right;">12</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">1,674</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">94</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">73</td></tr> <tr><td>環境対策引当金</td><td style="text-align: right;">14</td></tr> <tr><td>固定資産減価償却</td><td style="text-align: right;">70</td></tr> <tr><td>固定資産減損損失</td><td style="text-align: right;">16</td></tr> <tr><td>未実現利益の税効果</td><td style="text-align: right;">998</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">371</td></tr> <tr><td>投資有価証券の評価損</td><td style="text-align: right;">25</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">42</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">23</td></tr> <tr><td>未払事業所税</td><td style="text-align: right;">23</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権評価損</td><td style="text-align: right;">10</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">106</td></tr> <tr><td>小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,642</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">637</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,005</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>圧縮記帳積立金</td><td style="text-align: right;">575</td></tr> <tr><td>退職給付信託設定益</td><td style="text-align: right;">335</td></tr> <tr><td>支配獲得による資産時価評価</td><td style="text-align: right;">100</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">102</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">5</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,120</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td></td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,884</td></tr> </table> <p>(注) 当連結会計年度における繰延税金資産の純額は連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">322百万円</td></tr> <tr><td>固定資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">1,662</td></tr> <tr><td>流動負債 - その他</td><td style="text-align: right;">32</td></tr> <tr><td>固定負債 - 繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">68</td></tr> </table> <p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.69%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>住民税均等割額</td><td style="text-align: right;">16.56</td></tr> <tr><td>交際費の損金不算入</td><td style="text-align: right;">3.97</td></tr> <tr><td>受取配当金の益金不算入</td><td style="text-align: right;">1.88</td></tr> <tr><td>評価性引当額の増減</td><td style="text-align: right;">1.11</td></tr> <tr><td>のれんの償却額</td><td style="text-align: right;">6.21</td></tr> <tr><td>負のれん発生益</td><td style="text-align: right;">6.49</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">2.60</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">62.75</td></tr> </table>	賞与引当金	84百万円	株主優待引当金	12	退職給付引当金	1,674	役員退職慰労引当金	94	貸倒引当金	73	環境対策引当金	14	固定資産減価償却	70	固定資産減損損失	16	未実現利益の税効果	998	繰越欠損金	371	投資有価証券の評価損	25	その他有価証券評価差額金	42	未払事業税	23	未払事業所税	23	ゴルフ会員権評価損	10	その他	106	小計	3,642	評価性引当額	637	繰延税金資産合計	3,005	圧縮記帳積立金	575	退職給付信託設定益	335	支配獲得による資産時価評価	100	その他有価証券評価差額金	102	その他	5	繰延税金負債合計	1,120		1,884	流動資産 - 繰延税金資産	322百万円	固定資産 - 繰延税金資産	1,662	流動負債 - その他	32	固定負債 - 繰延税金負債	68	法定実効税率	40.69%	(調整)		住民税均等割額	16.56	交際費の損金不算入	3.97	受取配当金の益金不算入	1.88	評価性引当額の増減	1.11	のれんの償却額	6.21	負のれん発生益	6.49	その他	2.60	税効果会計適用後の法人税等の負担率	62.75	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">77百万円</td></tr> <tr><td>株主優待引当金</td><td style="text-align: right;">7</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">1,247</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">83</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">64</td></tr> <tr><td>環境対策引当金</td><td style="text-align: right;">11</td></tr> <tr><td>減価償却</td><td style="text-align: right;">61</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">123</td></tr> <tr><td>資産除去債務</td><td style="text-align: right;">65</td></tr> <tr><td>未実現利益の税効果</td><td style="text-align: right;">984</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">522</td></tr> <tr><td>投資有価証券の評価損</td><td style="text-align: right;">23</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">94</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">11</td></tr> <tr><td>未払事業所税</td><td style="text-align: right;">22</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権評価損</td><td style="text-align: right;">8</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">123</td></tr> <tr><td>小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,533</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">775</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,757</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>圧縮記帳積立金</td><td style="text-align: right;">503</td></tr> <tr><td>退職給付信託設定益</td><td style="text-align: right;">294</td></tr> <tr><td>支配獲得による資産時価評価</td><td style="text-align: right;">61</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">73</td></tr> <tr><td>資産除去債務</td><td style="text-align: right;">11</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">42</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">986</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td></td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,771</td></tr> </table> <p>(注) 当連結会計年度における繰延税金資産の純額は連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">367百万円</td></tr> <tr><td>固定資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">1,480</td></tr> <tr><td>流動負債 - その他</td><td style="text-align: right;">15</td></tr> <tr><td>固定負債 - 繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">61</td></tr> </table> <p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>税金等調整前当期純損失を計上しているため、注記を省略しております。</p>	賞与引当金	77百万円	株主優待引当金	7	退職給付引当金	1,247	役員退職慰労引当金	83	貸倒引当金	64	環境対策引当金	11	減価償却	61	減損損失	123	資産除去債務	65	未実現利益の税効果	984	繰越欠損金	522	投資有価証券の評価損	23	その他有価証券評価差額金	94	未払事業税	11	未払事業所税	22	ゴルフ会員権評価損	8	その他	123	小計	3,533	評価性引当額	775	繰延税金資産合計	2,757	圧縮記帳積立金	503	退職給付信託設定益	294	支配獲得による資産時価評価	61	その他有価証券評価差額金	73	資産除去債務	11	その他	42	繰延税金負債合計	986		1,771	流動資産 - 繰延税金資産	367百万円	固定資産 - 繰延税金資産	1,480	流動負債 - その他	15	固定負債 - 繰延税金負債	61
賞与引当金	84百万円																																																																																																																																																
株主優待引当金	12																																																																																																																																																
退職給付引当金	1,674																																																																																																																																																
役員退職慰労引当金	94																																																																																																																																																
貸倒引当金	73																																																																																																																																																
環境対策引当金	14																																																																																																																																																
固定資産減価償却	70																																																																																																																																																
固定資産減損損失	16																																																																																																																																																
未実現利益の税効果	998																																																																																																																																																
繰越欠損金	371																																																																																																																																																
投資有価証券の評価損	25																																																																																																																																																
その他有価証券評価差額金	42																																																																																																																																																
未払事業税	23																																																																																																																																																
未払事業所税	23																																																																																																																																																
ゴルフ会員権評価損	10																																																																																																																																																
その他	106																																																																																																																																																
小計	3,642																																																																																																																																																
評価性引当額	637																																																																																																																																																
繰延税金資産合計	3,005																																																																																																																																																
圧縮記帳積立金	575																																																																																																																																																
退職給付信託設定益	335																																																																																																																																																
支配獲得による資産時価評価	100																																																																																																																																																
その他有価証券評価差額金	102																																																																																																																																																
その他	5																																																																																																																																																
繰延税金負債合計	1,120																																																																																																																																																
	1,884																																																																																																																																																
流動資産 - 繰延税金資産	322百万円																																																																																																																																																
固定資産 - 繰延税金資産	1,662																																																																																																																																																
流動負債 - その他	32																																																																																																																																																
固定負債 - 繰延税金負債	68																																																																																																																																																
法定実効税率	40.69%																																																																																																																																																
(調整)																																																																																																																																																	
住民税均等割額	16.56																																																																																																																																																
交際費の損金不算入	3.97																																																																																																																																																
受取配当金の益金不算入	1.88																																																																																																																																																
評価性引当額の増減	1.11																																																																																																																																																
のれんの償却額	6.21																																																																																																																																																
負のれん発生益	6.49																																																																																																																																																
その他	2.60																																																																																																																																																
税効果会計適用後の法人税等の負担率	62.75																																																																																																																																																
賞与引当金	77百万円																																																																																																																																																
株主優待引当金	7																																																																																																																																																
退職給付引当金	1,247																																																																																																																																																
役員退職慰労引当金	83																																																																																																																																																
貸倒引当金	64																																																																																																																																																
環境対策引当金	11																																																																																																																																																
減価償却	61																																																																																																																																																
減損損失	123																																																																																																																																																
資産除去債務	65																																																																																																																																																
未実現利益の税効果	984																																																																																																																																																
繰越欠損金	522																																																																																																																																																
投資有価証券の評価損	23																																																																																																																																																
その他有価証券評価差額金	94																																																																																																																																																
未払事業税	11																																																																																																																																																
未払事業所税	22																																																																																																																																																
ゴルフ会員権評価損	8																																																																																																																																																
その他	123																																																																																																																																																
小計	3,533																																																																																																																																																
評価性引当額	775																																																																																																																																																
繰延税金資産合計	2,757																																																																																																																																																
圧縮記帳積立金	503																																																																																																																																																
退職給付信託設定益	294																																																																																																																																																
支配獲得による資産時価評価	61																																																																																																																																																
その他有価証券評価差額金	73																																																																																																																																																
資産除去債務	11																																																																																																																																																
その他	42																																																																																																																																																
繰延税金負債合計	986																																																																																																																																																
	1,771																																																																																																																																																
流動資産 - 繰延税金資産	367百万円																																																																																																																																																
固定資産 - 繰延税金資産	1,480																																																																																																																																																
流動負債 - その他	15																																																																																																																																																
固定負債 - 繰延税金負債	61																																																																																																																																																

前連結会計年度 平成22年12月31日	当連結会計年度 平成23年12月31日
	<p>3 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の修正</p> <p>平成23年12月2日に「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が公布され、平成24年4月1日以降開始する連結会計年度より法人税率が変更されることとなりました。</p> <p>これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は、一時差異等に係る解消時期に応じて以下のとおりとなります。</p> <p>平成24年12月31日まで 40.69% 平成25年1月1日から平成27年12月31日 38.01% 平成28年1月1日以降 35.64%</p> <p>この税率の変更により繰延税金資産の純額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が86百万円減少し、当連結会計年度に費用計上された法人税等調整額の金額が81百万円、その他有価証券評価差額金の金額が4百万円それぞれ増加しております。</p>

(資産除去債務関係)

当連結会計年度末 平成23年12月31日	
資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの	
(1)当該資産除去債務の概要	
店舗、営業所、倉庫等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務及び石綿障害予防規則等に伴うアスベスト除去費用であります。	
(2)当該資産除去債務の金額の算定方法	
使用見込期間を取得より10年から47年と見積り、割引率は0.962%から1.300%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。	
(3)当連結会計年度における当該資産除去債務の総額の増減	
期首残高(注)	192百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	3
資産除去債務の履行に伴う減少額	6
時の経過による調整額	0
期末残高	190
(注)「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成20年3月31日 企業会計基準第18号)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成20年3月31日 企業会計基準適用指針第21号)を当連結会計年度から適用したことによる期首時点における残高であります。	

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自平成22年1月1日至平成22年12月31日)

(追加情報)

当連結会計年度から平成20年11月28日公表の「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 企業会計基準第20号)及び「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第23号)を適用しております。

当社及び一部の子会社では、東京都その他の地域において、賃貸収益を得ることを目的として賃貸のオフィスビル等を所有しております。

なお、賃貸オフィスビルの一部については、当社及び一部の子会社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

これら賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する連結貸借対照表計上額及び当連結会計年度の主な変動並びに当連結会計年度末の時価及び当該時価の算定方法は次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額			当連結会計年度末の時価 (百万円)
	前連結会計年度末残高 (百万円)	当連結会計年度増減額 (百万円)	当連結会計年度末残高 (百万円)	
賃貸等不動産	451	19	471	1,590
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産	2,806	63	2,742	4,335

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2 主な変動

増加は、不動産の取得 90百万円

減少は、不動産の売却 52百万円

3 時価の算定方法

当連結会計年度末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて不動産鑑定士が算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。また、賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する損益は、次のとおりであります。

	賃貸収益 (百万円)	賃貸費用 (百万円)	差額 (百万円)	その他 (売却損益等) (百万円)
賃貸等不動産	109	18	90	100
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産	340	169	171	0

(注) 1 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産には、物品の販売、サービスの提供及び経営管理として当社及び一部の子会社が使用している部分も含むため、当該部分の賃貸収益は計上されておりません。

なお、当該不動産に係る費用(減価償却、修繕費、保険料、租税公課等)については、賃貸費用に含まれておりません。

2 その他(売却損益等)は、売却益が100百万円、除却損が0百万円であります。

当連結会計年度（自平成23年1月1日至平成23年12月31日）

当社及び一部の子会社では、東京都その他の地域において、賃貸収益を得ることを目的として賃貸のオフィスビル等を所有しております。

なお、賃貸オフィスビルの一部については、当社及び一部の子会社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

これら賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する連結貸借対照表計上額及び当連結会計年度の主な変動並びに当連結会計年度末の時価及び当該時価の算定方法は次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額			当連結会計年度末の時価 (百万円)
	前連結会計年度末残高 (百万円)	当連結会計年度増減額 (百万円)	当連結会計年度末残高 (百万円)	
賃貸等不動産	471	53	417	1,529
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産	2,742	59	2,683	4,174

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2 主な変動

増加は、不動産の取得 8百万円

減少は、不動産の売却 40百万円

3 時価の算定方法

当連結会計年度末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて不動産鑑定士が算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）であります。また、賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する損益は、次のとおりであります。

	賃貸収益 (百万円)	賃貸費用 (百万円)	差額 (百万円)	その他 (売却損益等) (百万円)
賃貸等不動産	95	21	74	15
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産	341	134	207	9

(注) 1 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産には、物品の販売、サービスの提供及び経営管理として当社及び一部の子会社が使用している部分も含むため、当該部分の賃貸収益は計上されておりません。

なお、当該不動産に係る費用(減価償却、修繕費、保険料、租税公課等)については、賃貸費用に含まれておりません。

2 その他(売却損益等)は、売却損が15百万円、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額が7百万円、除却損が1百万円であります。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

	クリーニング事業 (百万円)	レンタル事業 (百万円)	不動産事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	23,639	19,107	528	994	44,270		44,270
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	172	88	225	1,946	2,433	(2,433)	
計	23,812	19,196	754	2,940	46,704	(2,433)	44,270
営業費用	23,112	18,120	560	2,924	44,717	(954)	43,763
営業利益	700	1,075	194	16	1,986	(1,479)	507
資産、減価償却費 及び資本的支出							
資産	11,079	13,023	3,185	1,021	28,308	2,165	30,474
減価償却費	473	344	97	3	919	88	1,008
資本的支出	374	408	47	8	838	102	940

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な内容

クリーニング事業・・・個人及び法人のドライクリーニング品、ランドリー品等の洗濯、仕上、加工等を取扱う事業であります。

レンタル事業・・・ホテル、レストラン、会社等のユニフォームやシャツ、ホーフ等のクリーニング付レンタル及びモップ、マット等のレンタルを取扱う事業であります。

不動産事業・・・不動産の賃貸及び管理・仲介を取扱う事業であります。

その他事業・・・洗濯機械販売、修理、各種洗濯資材・ユニフォームの製造、販売等を取扱う事業であります。

3 営業費用のうち消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、1,537百万円であり、その主なものは当社の総務部門、経理部門、財務部門に係る費用であります。

4 資産のうち消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は、7,135百万円であり、その主なものは、当社での余資運用資金(現金預金及び有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係わる資金等であります。

5 減価償却費及び資本的支出には長期前払費用とその償却額が含まれております。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度において、全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める日本の割合が、いずれも90%を超えているため、記載を省略しております。

【海外売上高】

前連結会計年度における海外売上高が、いずれも連結売上高の10%未満のため、記載を省略しております。

【セグメント情報】

当連結会計年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、主として事業別のセグメントから構成されており、「クリーニング」「レンタル」及び「不動産」の3つを報告セグメントとしております。

「クリーニング」は個人及び法人のドライクリーニング品、ランドリー品等の洗濯、仕上、加工等を取扱う事業であります。

「レンタル」はホテル、レストラン、会社等のユニフォームやシート、ホーフ等のクリーニング付レンタルを取扱う事業であります。

「不動産」は不動産の賃貸及び管理・仲介を取扱う事業であります。

いずれの報告セグメントも、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

当連結会計年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

	報告セグメント				その他 (注1) (百万円)	合計 (百万円)	調整額 (注3) (百万円)	連結財務諸 表計上額 (注4) (百万円)
	ク リ ン グ (百万円)	レ ン タ ル (百万円)	不 動 産 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
外部顧客への売上高	22,562	16,575	524	39,662	3,117	42,780		42,780
セグメント間の内部 売上高又は振替高	139	68	234	441	1,929	2,371	2,371	
計	22,702	16,644	758	40,104	5,047	45,151	2,371	42,780
セグメント利益	767	575	237	1,580	109	1,689	1,314	374
セグメント資産	10,590	11,768	3,163	25,522	1,612	27,134	2,167	29,302
その他の項目								
減価償却費(注2)	456	374	97	928	16	945	89	1,034
のれんの償却額	0	2	77	80		80		80
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額 (注2)	428	406	10	845	32	878	16	895

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ハウスクリーニングやモップ、マット等のレンタルを行うクリーンサービス事業や、洗濯機械販売、修理、各種洗濯資材・ユニフォームの製造、販売等を取扱う事業を含んでおります。

2 減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用の償却費と増加額が含まれております。

3 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額 1,314百万円には、セグメント間消去57百万円、各セグメントに配賦していない全社費用 1,371百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額2,167百万円には、セグメント間の債権の相殺消去等が 6,032百万円、全社資産が8,200百万円が含まれております。全社資産の主なものは、当社での余資運用資金、長期投資資金(持分法適用関連会社株式を含む)、繰延税金資産及び管理部門に係る資産等であります。

4 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

5 前年度において従来までの取扱いにより開示したセグメント情報を、本会計基準に準拠して作り直すことが実務上困難なため、当年度のセグメント情報を前年度のセグメント情報の取扱いに基づき、次のとおり作成して

おります。

当連結会計年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

	クリーニング事業 (百万円)	レンタル事業 (百万円)	不動産事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	22,879	18,523	524	852	42,780		42,780
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	153	88	234	1,864	2,340	(2,340)	
計	23,033	18,612	758	2,716	45,121	(2,340)	42,780
営業費用	22,243	17,984	520	2,682	43,431	(1,026)	42,405
営業利益	789	628	237	34	1,689	(1,314)	374
資産、減価償却費 及び資本的支出							
資産	10,628	12,502	3,163	839	27,134	2,167	29,302
減価償却費	457	383	97	7	945	89	1,034
資本的支出	428	420	10	18	878	16	895

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な内容

クリーニング事業・・・個人及び法人のドライクリーニング品、ランドリー品等の洗濯、仕上、加工等を取扱う事業であります。

レンタル事業・・・ホテル、レストラン、会社等のユニフォームやシーツ、ホープ等のクリーニング付レンタル及びモップ、マット等のレンタルを取扱う事業であります。

不動産事業・・・不動産の賃貸及び管理・仲介を取扱う事業であります。

その他事業・・・洗濯機械販売、修理、各種洗濯資材・ユニフォームの製造、販売等を取扱う事業であります。

3 営業費用のうち消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、1,371百万円であり、その主なものは当社の総務部門、経理部門、財務部門に係る費用であります。

4 資産のうち消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は、8,200百万円であり、その主なものは、当社での余資運用資金(現金預金及び有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係わる資金等でありませぬ。

5 減価償却費及び資本的支出には長期前払費用とその償却額が含まれております。

【関連情報】

当連結会計年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当連結会計年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

	報告セグメント				その他 (百万円)	合計 (百万円)	調整額 (百万円)	連結財務諸 表計上額 (百万円)
	クリー ニング (百万円)	レン タル (百万円)	不動 産 (百万円)	計 (百万円)				
減損損失	331		16	347		347		347

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当連結会計年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

のれんの未償却残高はありません。のれん償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当連結会計年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

子会社である共同リネンサプライ株式会社の株式を少数株主より取得しております。

これに伴い、当連結会計年度においてレンタルに54百万円、その他に0百万円の負ののれん発生益を計上しております。

(追加情報)

「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成20年3月21日)を当連結会計年度から適用しております。

(企業結合等関係)

前連結会計年度(自平成22年1月1日至平成22年12月31日)

取得による企業結合に係る注記事項

1. 被取得企業の名称及びその事業の内容、企業結合を行った主な理由、企業結合日、企業結合の法的形式、結合後企業の名称及び取得した議決権比率

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 北洋リネンサプライ(株)

事業の内容 リネンサプライ業

(2) 企業結合を行った主な理由

当社による営業支援を強化することにより、札幌地区での営業の拡大を図るためであります。

(3) 企業結合日

平成22年9月30日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

北洋リネンサプライ(株)

(6) 取得した議決権比率

取得直前に所有していた議決権比率 36%

企業結合日に追加取得した議決権比率 36%

取得後の議決権比率 72%

2. 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

平成21年10月1日から平成22年9月30日までの被取得企業の業績の当社持分相当額を、連結財務諸表の持分法による投資利益に計上しております。

3. 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価として現金	30	百万円
------------	----	-----

取得原価	30
------	----

4. 負ののれん発生益の金額及び発生原因

(1) 発生した負ののれんの金額

114百万円

(2) 発生した原因

被取得企業に係る当社持分相当額が取得原価を上回ったためであります。

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	233	百万円
------	-----	-----

固定資産	292
------	-----

資産合計	526
------	-----

流動負債	153	百万円
------	-----	-----

固定負債	135
------	-----

負債合計	289
------	-----

当連結会計年度(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	㈱廣瀬商会	東京都中央区	100	繊維製品卸売業	被所有直接2.74	リネン品仕入 役員の兼任	リネンサプライ用綿製品等購入	188	買掛金	44

取引条件及び取引条件の決定方針等

注 1 一般取引先と同様であります。

2 当社取締役廣瀬太郎氏及びその近親者が議決権の67.25%を直接保有しております。

3 上記取引金額には、消費税等を含まず、残高には消費税等を含みます。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	㈱廣瀬商会	東京都中央区	100	繊維製品卸売業	被所有直接2.74	リネン品仕入 役員の兼任	㈱双立他によるリネンサプライ用綿製品等購入	219	買掛金	30

取引条件及び取引条件の決定方針等

注 1 一般取引先と同様であります。

2 当社取締役廣瀬太郎氏及びその近親者が議決権の67.25%を直接保有しております。

3 上記取引金額には、消費税等を含まず、残高には消費税等を含みます。

当連結会計年度(自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	㈱廣瀬商会	東京都中央区	100	繊維製品卸売業	被所有直接2.74	リネン品仕入 役員の兼任	リネンサプライ用綿製品等購入	190	買掛金	43

取引条件及び取引条件の決定方針等

注1 一般取引先と同様であります。

2 当社取締役廣瀬太郎氏及びその近親者が議決権の67.25%を直接保有しております。

3 上記取引金額には、消費税等を含まず、残高には消費税等を含みます。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	㈱廣瀬商会	東京都中央区	100	繊維製品卸売業	被所有直接2.74	リネン品仕入 役員の兼任	㈱双立他によるリネンサプライ用綿製品等購入	299	買掛金	44

取引条件及び取引条件の決定方針等

注1 一般取引先と同様であります。

2 当社取締役廣瀬太郎氏及びその近親者が議決権の67.25%を直接保有しております。

3 上記取引金額には、消費税等を含まず、残高には消費税等を含みます。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日	当連結会計年度 自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日
1株当たり純資産額	151.79円	129.79円
1株当たり当期純利益金額又は1株 当たり当期純損失金額()	5.72円	13.45円
	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式がないため記載していません。	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、1株当たり当期純損失金額であり、潜在株式がないため記載していません。
	1株当たり純資産額の算定上の基礎	1株当たり純資産額の算定上の基礎
	連結貸借対照表上の純資産の部 6,356百万円	連結貸借対照表上の純資産の部 5,480百万円
	純資産の部から控除する少数株主 持分 537百万円	純資産の部から控除する少数株主 持分 505百万円
	普通株式に係る期末の純資産額 5,818百万円	普通株式に係る期末の純資産額 4,974百万円
	普通株式の期末株式数 38,331,681株	普通株式の期末株式数 38,323,520株
	1株当たり当期純利益金額の算定上 の 基礎	1株当たり当期純損失金額の算定上 の 基礎
	連結損益計算書上の当期純利益 219百万円	連結損益計算書上の当期純損失 515百万円
	普通株式に係る当期純利益 219百万円	普通株式に係る当期純損失 515百万円
	普通株主に帰属しない金額の主要 な内訳 該当事項はありません。	普通株主に帰属しない金額の主要 な内訳 該当事項はありません。
	普通株式の期中平均株式数 38,351,649株	普通株式の期中平均株式数 38,325,410株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
共同リネンサプライ株式会社	第6回 無担保社債	平成17年 12月26日	10			無担保社債	平成22年 12月24日
共同リネンサプライ株式会社	第7回 無担保社債	平成18年 2月27日	10			無担保社債	平成22年 12月24日
共同リネンサプライ株式会社	第8回 無担保社債	平成19年 3月30日	15	5 (5)	1.33	無担保社債	平成24年 3月27日
共同リネンサプライ株式会社	第9回 無担保社債	平成21年 7月10日	80	60 (20)	0.92	無担保社債	平成26年 6月27日
合計			115	65 (25)			

(注) 1 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

2 連結決算日後5年以内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
25	20	20		

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	4,008	3,849	1.27	
1年以内に返済予定の長期借入金	4,248	2,850	1.53	
1年以内に返済予定のリース債務	305	367	3.86	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	3,821	5,862	1.53	平成25年1月31日～ 平成30年4月15日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,235	1,307	3.86	平成25年1月10日～ 平成32年11月5日
其他有利子負債(従業員預り金)	779	753	0.50	
合計	14,398	14,991		

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	1,450	1,161	779	2,361
リース債務	373	346	182	121

3 其他有利子負債の従業員預り金は返済期限を定めておりません。

【資産除去債務明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)(注)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務		197	6	190

(注)当期増加額には、適用初年度の期首における既存資産の帳簿価額に含まれる除去費用192百万円を含みます。

(2) 【その他】

当連結会計年度における各四半期連結会計期間に係る売上等

	第1四半期 自平成23年1月1日 至平成23年3月31日	第2四半期 自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	第3四半期 自平成23年7月1日 至平成23年9月30日	第4四半期 自平成23年10月1日 至平成23年12月31日
売上高 (百万円)	8,648	12,465	10,500	11,165
税金等調整前四半期純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額 (百万円)	1,684	1,551	61	156
四半期純利益金額又は四半期純損失金額 (百万円)	1,079	868	120	183
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 (円)	28.15	22.65	3.15	4.80

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年12月31日)	当事業年度 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	227	547
受取手形	5 68	5 68
売掛金	2,451	2,366
たな卸資産	1 3,104	1 2,794
前払費用	55	51
繰延税金資産	231	304
関係会社短期貸付金	546	552
預け金	286	292
その他	153	159
貸倒引当金	79	79
流動資産合計	7,044	7,056
固定資産		
有形固定資産		
建物	2 11,672	2 11,617
減価償却累計額	7,361	-
減価償却累計額及び減損損失累計額	-	7,538
建物（純額）	4,311	4,079
借入店舗造作	1,977	2,043
減価償却累計額	1,593	-
減価償却累計額及び減損損失累計額	-	1,724
借入店舗造作（純額）	384	319
構築物	942	923
減価償却累計額	779	-
減価償却累計額及び減損損失累計額	-	782
構築物（純額）	162	141
機械及び装置	5,118	4,860
減価償却累計額	4,805	-
減価償却累計額及び減損損失累計額	-	4,628
機械及び装置（純額）	313	232
車両運搬具	178	176
減価償却累計額	161	-
減価償却累計額及び減損損失累計額	-	168
車両運搬具（純額）	16	8
工具、器具及び備品	1,802	1,749
減価償却累計額	1,635	-
減価償却累計額及び減損損失累計額	-	1,627
工具、器具及び備品（純額）	166	122
土地	2 4,625	2 4,350

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年12月31日)	当事業年度 (平成23年12月31日)
リース資産	464	770
減価償却累計額	63	-
減価償却累計額及び減損損失累計額	-	160
リース資産（純額）	400	609
建設仮勘定	5	-
有形固定資産合計	10,386	9,861
無形固定資産		
借地権	72	54
電話加入権	52	48
施設利用権	3	3
ソフトウェア	194	136
リース資産	9	7
無形固定資産合計	332	249
投資その他の資産		
投資有価証券	² 1,976	² 1,744
関係会社株式	2,126	2,291
出資金	3	3
関係会社長期貸付金	63	52
破産更生債権等	9	0
長期前払費用	6	2
差入保証金	³ 2,112	³ 2,000
繰延税金資産	733	644
その他	37	31
貸倒引当金	91	90
投資その他の資産合計	6,976	6,681
固定資産合計	17,695	16,792
資産合計	24,740	23,849
負債の部		
流動負債		
買掛金	³ 1,559	³ 1,452
短期借入金	² 3,020	² 2,700
1年内返済予定の長期借入金	² 3,788	^{2, 6} 2,363
リース債務	269	316
未払金	19	15
未払費用	797	775
未払法人税等	98	78
未払事業所税	51	50
未払消費税等	154	172
預り金	³ 699	³ 673
賞与引当金	108	96

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年12月31日)	当事業年度 (平成23年12月31日)
株主優待引当金	30	18
災害損失引当金	-	11
従業員預り金	779	753
その他	29	26
流動負債合計	11,407	9,505
固定負債		
長期借入金	2,965	5,101
リース債務	1,089	1,115
退職給付引当金	2,270	1,722
役員退職慰労引当金	195	198
環境対策引当金	35	30
資産除去債務	-	148
受入保証金	650	637
固定負債合計	7,206	8,955
負債合計	18,613	18,460
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,410	2,410
資本剰余金		
資本準備金	1,436	1,436
その他資本剰余金	11	11
資本剰余金合計	1,447	1,447
利益剰余金		
利益準備金	602	602
その他利益剰余金	1,604	1,007
圧縮記帳積立金	774	840
別途積立金	400	400
繰越利益剰余金	430	233
利益剰余金合計	2,207	1,609
自己株式	31	32
株主資本合計	6,033	5,434
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	93	45
評価・換算差額等合計	93	45
純資産合計	6,126	5,389
負債純資産合計	24,740	23,849

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
売上高		
工料	32,369	30,303
商品売上高	1,261	1,272
不動産賃貸収入	361	359
売上高合計	33,991	31,936
売上原価		
工料売上原価	30,890	28,976
商品売上原価		
商品売上原価	1 893	1 900
商品諸掛	2 359	2 339
小計	1,252	1,239
不動産賃貸費用	3 153	3 130
売上原価合計	32,296	30,346
売上総利益	1,695	1,589
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	74	54
給料手当及び賞与	380	362
賞与引当金繰入額	7	5
役員報酬	150	141
退職給付費用	111	103
役員退職慰労引当金繰入額	17	41
法定福利費	71	69
福利厚生費	47	45
租税公課	40	43
交際費	13	8
株主優待引当金繰入額	23	11
減価償却費	107	107
研究開発費	7 53	7 43
保険料	61	59
貸倒引当金繰入額	1	4
その他	375	335
販売費及び一般管理費合計	1,537	1,439
営業利益	157	150

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
営業外収益		
受取利息	11	9
受取配当金	269	164
受取保険金	14	24
受取補償金	79	39
保険配当金	27	7
雑収入	100	63
営業外収益合計	4 503	4 309
営業外費用		
支払利息	225	212
シンジケートローン手数料	-	49
リース解約損	44	0
雑損失	25	18
営業外費用合計	294	281
経常利益	365	178
特別利益		
投資有価証券売却益	-	167
固定資産売却益	5 67	-
貸倒引当金戻入額	1	0
株式割当益	87	-
特別利益合計	156	167
特別損失		
固定資産処分損	6 22	6 48
貸倒引当金繰入額	1	7
減損損失	-	8 331
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	135
災害による損失	-	75
環境対策引当金繰入額	1	-
その他	-	0
特別損失合計	25	598
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	497	251
法人税、住民税及び事業税	110	108
法人税等調整額	142	81
法人税等合計	252	190
当期純利益又は当期純損失()	245	442

【工料売上原価計算書】

当社の事業はサービス業であって工料売上原価を厳格に区分することは困難であります。工場作業費と集配及び店舗費を売上原価として計上しております。

区分	注記 番号	前事業年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日			当事業年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日		
		金額(百万円)		百分比 (%)	金額(百万円)		百分比 (%)
(1) 労務費							
1 作業労務費		3,453			3,168		
2 賞与引当金繰入額		31			28		
3 退職給付費用		183	3,669	11.9	177	3,374	11.7
(2) 外注作業費							
外注作業費		5,920	5,920	19.2	5,611	5,611	19.4
(3) 資材費							
1 作業用資材費		955			861		
2 リネン消耗費		1,687	2,643	8.6	1,673	2,534	8.8
(4) 工場間接費							
1 水道光熱費		956			881		
2 減価償却費		342			364		
3 租税公課		86			87		
4 その他経費		2,225	3,610	11.7	1,904	3,237	11.2
工場作業費計			15,843	51.3		14,758	50.9
(5) 集配及び店舗費							
1 集配及び運搬費		947			914		
2 広告宣伝費		200			173		
3 給料手当		6,769			6,430		
4 賞与引当金繰入額		67			61		
5 退職給付費用		370			369		
6 福利厚生費		386			373		
7 店舗運営費		1,107			1,030		
8 租税公課		148			135		
9 減価償却費		219			182		
10 その他		4,829	15,047	48.7	4,546	14,218	49.1
工料売上原価			30,890	100.0		28,976	100.0

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	2,410	2,410
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,410	2,410
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	1,436	1,436
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,436	1,436
その他資本剰余金		
前期末残高	11	11
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	11	11
資本剰余金合計		
前期末残高	1,447	1,447
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,447	1,447
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	602	602
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	602	602
その他利益剰余金		
圧縮記帳積立金		
前期末残高	774	774
当期変動額		
圧縮記帳積立金の積立	-	65
当期変動額合計	-	65
当期末残高	774	840
別途積立金		
前期末残高	400	400
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	400	400

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
繰越利益剰余金		
前期末残高	379	430
当期変動額		
剰余金の配当	194	155
当期純利益又は当期純損失()	245	442
圧縮記帳積立金の積立	-	65
当期変動額合計	50	663
当期末残高	430	233
利益剰余金合計		
前期末残高	2,156	2,207
当期変動額		
剰余金の配当	194	155
当期純利益又は当期純損失()	245	442
圧縮記帳積立金の積立	-	-
当期変動額合計	50	597
当期末残高	2,207	1,609
自己株式		
前期末残高	25	31
当期変動額		
自己株式の取得	6	1
当期変動額合計	6	1
当期末残高	31	32
株主資本合計		
前期末残高	5,989	6,033
当期変動額		
剰余金の配当	194	155
当期純利益又は当期純損失()	245	442
自己株式の取得	6	1
当期変動額合計	44	598
当期末残高	6,033	5,434

	前事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	138	93
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	45	138
当期変動額合計	45	138
当期末残高	93	45
評価・換算差額等合計		
前期末残高	138	93
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	45	138
当期変動額合計	45	138
当期末残高	93	45
純資産合計		
前期末残高	6,128	6,126
当期変動額		
剰余金の配当	194	155
当期純利益又は当期純損失（ ）	245	442
自己株式の取得	6	1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	45	138
当期変動額合計	1	737
当期末残高	6,126	5,389

【重要な会計方針】

前事業年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日	当事業年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日
<p>貸借対照表および損益計算書の作成に当って採用した重要な会計処理の原則および手続きは次のとおりであります。</p> <p>1 有価証券の評価基準および評価方法 子会社株式及び関連会社株式 ：総平均法による原価法 その他有価証券 時価のあるもの：決算期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は、総平均法により算定し、評価差額は全部純資産直入法により処理しております。)</p> <p>時価のないもの：総平均法による原価法</p> <p>2 たな卸資産の評価基準および評価方法 商品、貯蔵品.....先入先出法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法)</p> <p>使用中リネン.....レンタル営業に使用中の布帛類の評価額で消耗計算はつぎのように行うことにしております。</p> <p>ホテルリネン..... 3年定率 ユニフォーム.....一定耐用期間 レンタルおよびケミサプライ</p> <p>3 固定資産の減価償却方法 有形固定資産.....建物 (リース資産を除く) 定額法 その他の有形固定資産 定率法 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 3年～50年 借入店舗造作 3年～18年 機械及び装置 13年 工具、器具及び備品 3年～20年 無形固定資産(リース資産を除く).....定額法 なお、ソフトウェア(自社利用)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法</p> <p>リース資産..... 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <p>なお、平成20年12月31日以前に契約した、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	<p>貸借対照表および損益計算書の作成に当って採用した重要な会計処理の原則および手続きは次のとおりであります。</p> <p>1 有価証券の評価基準および評価方法 子会社株式及び関連会社株式 ：同左 その他有価証券 時価のあるもの：同左</p> <p>時価のないもの：同左</p> <p>2 たな卸資産の評価基準および評価方法 商品、貯蔵品.....同左</p> <p>使用中リネン.....同左</p> <p>ホテルリネン.....同左 ユニフォーム.....同左 レンタルおよびケミサプライ</p> <p>3 固定資産の減価償却方法 有形固定資産.....建物 (リース資産を除く) 定額法 その他の有形固定資産 定率法 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 3年～50年 借入店舗造作 3年～18年 機械及び装置 13年 工具、器具及び備品 3年～20年 無形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>リース資産.....同左</p>

<p>前事業年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日</p>	<p>当事業年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日</p>
<p>4 引当金の計上基準</p> <p>貸倒引当金.....債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>一般債権 貸倒実績率法によっております。 貸倒懸念債権及び破産更生債権 個別の債権の回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>賞与引当金.....従業員の賞与支給に備えて賞与支給見込額の当期負担額を計上しております。</p> <p>株主優待引当金.....将来の株主優待制度の利用に備えるため、株主優待制度の利用実績に基づき、当事業年度末における株主優待制度利用見込額を計上しております。</p> <p>役員賞与引当金.....役員に支給する賞与の支払いに備えるため、当事業年度末における支給見込額に基づき計上することとしております。</p> <p>退職給付引当金.....従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額を定額法により費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による按分額を定額法により翌期より費用処理しております。</p> <p>(会計方針の変更) 「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)(企業会計基準委員会平成20年7月31日 企業会計基準第19号)を当事業年度から適用しております。これによる損益に与える影響はありません。</p>	<p>4 引当金の計上基準</p> <p>貸倒引当金..... 同左</p> <p>賞与引当金..... 同左</p> <p>株主優待引当金..... 同左</p> <p>災害損失引当金.....東日本大震災により被災した資産の原状回復費用等の支出に備え、発生見込額を計上しております。</p> <p>退職給付引当金.....従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額を定額法により費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による按分額を定額法により翌期より費用処理しております。</p>

<p>前事業年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日</p>	<p>当事業年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日</p>
<p>役員退職慰労引当金...役員に支給する退職慰労金の支払いに備えるため、当事業年度末における役員退職慰労金に関する社内規定に基づく支給見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>環境対策引当金.....将来の環境対策に要する支出（ポリ塩化ビフェニル廃棄物の処理及び土壌改良工事等の環境関連費用）のうち、当事業年度において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>5 ヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 特例処理の要件を満たす金利スワップについては、特例処理を採用しております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 (ヘッジ手段) 金利スワップ (ヘッジ対象) 借入金の利息 ヘッジ方針 借入金の金利変動を回避する目的で金利スワップ取引を行っております。ヘッジ対象の識別は個別契約ごとに行っております。 ヘッジ有効性評価の方法 金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。 その他リスク管理方法のうちヘッジ会計に係るもの 稟議規程に基づき決議され、取締役会において承認を受けております。</p> <p>6 消費税等の会計処理方法 消費税及び地方消費税の会計処理方法は税抜方式によっております。</p>	<p>役員退職慰労引当金... 同左</p> <p>環境対策引当金..... 同左</p> <p>5 ヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 同左 ヘッジ手段とヘッジ対象 (ヘッジ手段) 同左 (ヘッジ対象) 同左 ヘッジ方針 同左 ヘッジ有効性評価の方法 同左 その他リスク管理方法のうちヘッジ会計に係るもの 同左</p> <p>6 消費税等の会計処理方法 同左</p>

【会計方針の変更】

<p>前事業年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日</p>	<p>当事業年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日</p>
<p>「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準委員会平成20年12月26日 企業会計基準第21号)、「『研究開発費等に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準委員会平成20年12月26日 企業会計基準第23号)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準委員会平成20年12月26日 企業会計基準第7号)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準委員会平成20年12月26日 企業会計基準適用指針第10号)を適用しております。</p>	<p>「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準委員会平成20年3月31日 企業会計基準第18号)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会平成20年3月31日 企業会計基準適用指針第21号)を当事業年度から適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合と比較して、営業利益及び経常利益はそれぞれ5百万円減少し、税引前当期純損失は133百万円増加しております。</p>

【表示方法の変更】

<p>前事業年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日</p>	<p>当事業年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日</p>
	<p>前事業年度において、営業外費用の「その他」に含めて表示しておりました「シンジケートローン手数料」(前事業年度6百万円)は、営業外費用総額の10/100を超えたため、当事業年度においては区分掲記することとしました。</p>

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 平成22年12月31日		当事業年度 平成23年12月31日																					
1	<p>たな卸資産の内訳</p> <table border="1"> <tr> <td>商品及び製品</td> <td>56百万円</td> </tr> <tr> <td>使用中リネン</td> <td>1,990</td> </tr> <tr> <td>貯蔵品</td> <td>199</td> </tr> <tr> <td>リース資産</td> <td>857</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,104</td> </tr> </table>	商品及び製品	56百万円	使用中リネン	1,990	貯蔵品	199	リース資産	857	計	3,104	1	<p>たな卸資産の内訳</p> <table border="1"> <tr> <td>商品及び製品</td> <td>63百万円</td> </tr> <tr> <td>使用中リネン</td> <td>1,843</td> </tr> <tr> <td>貯蔵品</td> <td>204</td> </tr> <tr> <td>リース資産</td> <td>681</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2,794</td> </tr> </table>	商品及び製品	63百万円	使用中リネン	1,843	貯蔵品	204	リース資産	681	計	2,794
商品及び製品	56百万円																						
使用中リネン	1,990																						
貯蔵品	199																						
リース資産	857																						
計	3,104																						
商品及び製品	63百万円																						
使用中リネン	1,843																						
貯蔵品	204																						
リース資産	681																						
計	2,794																						
2	<p>有形固定資産および投資有価証券のうち下記のもの を長期借入金1,812百万円、一年以内に返済する 長期借入金1,741百万円及び短期借入金2,400百万 円の担保に供しております。</p> <table border="1"> <tr> <td>土地</td> <td>2,027百万円</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td>2,600</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券</td> <td>142</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,770</td> </tr> </table>	土地	2,027百万円	建物	2,600	投資有価証券	142	計	4,770	2	<p>有形固定資産および投資有価証券のうち下記のもの を長期借入金808百万円、一年以内に返済する長 期借入金1,003百万円及び短期借入金2,200百万 円の担保に供しております。</p> <table border="1"> <tr> <td>土地</td> <td>1,792百万円</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td>2,494</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券</td> <td>117</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,403</td> </tr> </table>	土地	1,792百万円	建物	2,494	投資有価証券	117	計	4,403				
土地	2,027百万円																						
建物	2,600																						
投資有価証券	142																						
計	4,770																						
土地	1,792百万円																						
建物	2,494																						
投資有価証券	117																						
計	4,403																						
3	<p>関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている 関係会社に関するものは次の通りであります。</p> <table border="1"> <tr> <td>預り金</td> <td>330百万円</td> </tr> <tr> <td>差入保証金</td> <td>291</td> </tr> <tr> <td>買掛金</td> <td>191</td> </tr> </table>	預り金	330百万円	差入保証金	291	買掛金	191	3	<p>関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている 関係会社に関するものは次の通りであります。</p> <table border="1"> <tr> <td>預り金</td> <td>338百万円</td> </tr> <tr> <td>差入保証金</td> <td>284</td> </tr> <tr> <td>買掛金</td> <td>162</td> </tr> </table>	預り金	338百万円	差入保証金	284	買掛金	162								
預り金	330百万円																						
差入保証金	291																						
買掛金	191																						
預り金	338百万円																						
差入保証金	284																						
買掛金	162																						
4	<p>債務保証 下記の会社等の金融機関借入金等に対して債務保 証を 行っております。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>被保証者名</th> <th>保証金額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東日本ホールセール(株)</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>300</td> </tr> </tbody> </table>	被保証者名	保証金額 (百万円)	東日本ホールセール(株)	300	合計	300	4	<p>債務保証 下記の会社等の金融機関借入金等に対して債務保 証を 行っております。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>被保証者名</th> <th>保証金額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東日本ホールセール(株)</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>300</td> </tr> </tbody> </table>	被保証者名	保証金額 (百万円)	東日本ホールセール(株)	300	合計	300								
被保証者名	保証金額 (百万円)																						
東日本ホールセール(株)	300																						
合計	300																						
被保証者名	保証金額 (百万円)																						
東日本ホールセール(株)	300																						
合計	300																						
5	<p>期末日満期手形の会計処理 期末日満期手形は、手形交換日をもって決済処理し ております。当期末日は金融機関の休日であったた め、期末日満期手形が以下の科目に含まれておりま す。</p> <table border="1"> <tr> <td>受取手形</td> <td>0百万円</td> </tr> </table>	受取手形	0百万円	5	<p>期末日満期手形の会計処理 期末日満期手形は、手形交換日をもって決済処理し ております。当期末日は金融機関の休日であったた め、期末日満期手形が以下の科目に含まれておりま す。</p> <table border="1"> <tr> <td>受取手形</td> <td>0百万円</td> </tr> </table>	受取手形	0百万円																
受取手形	0百万円																						
受取手形	0百万円																						
		6	<p>財務制限条項 借入金のうち、5,500百万円には、純資産の部及び 経常損益に係る財務制限条項が付されております。</p>																				

(損益計算書関係)

前事業年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日		当事業年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日									
1	商品売上原価の内訳は次のとおりであります。 商品期首たな卸高 55百万円 当期商品仕入高 893 商品期末たな卸高 56 商品売上原価 893	1	商品売上原価の内訳は次のとおりであります。 商品期首たな卸高 56百万円 当期商品仕入高 907 商品期末たな卸高 63 商品売上原価 900								
2	商品諸掛の内訳は次のとおりであります。 給料手当 174百万円 店舗・事務所経費 83 集配及び運搬費 24 その他の経費 77 計 359	2	商品諸掛の内訳は次のとおりであります。 給料手当 165百万円 店舗・事務所経費 78 集配及び運搬費 23 その他の経費 72 計 339								
3	不動産賃貸費用の内訳は次のとおりであります。 減価償却費 68百万円 固定資産税 42 その他の経費 42 計 153	3	不動産賃貸費用の内訳は次のとおりであります。 減価償却費 66百万円 固定資産税 41 その他の経費 22 計 130								
4	関係会社に関する注記 営業外収益に含まれている関係会社に関するものは次のとおりであります。 受取配当金他 233百万円	4	関係会社に関する注記 営業外収益に含まれている関係会社に関するものは次のとおりであります。 受取配当金他 126百万円								
5	固定資産売却益の内訳は工具器具及び備品 0百万円、土地66百万円であります。										
6	固定資産処分損の内訳は建物 1百万円、借入店舗造作 5百万円、構築物 0百万円、機械及び装置 7百万円、車輛運搬具 0百万円、工具器具及び備品 2百万円、リース資産 1百万円、無形固定資産 3百万円であります。	6	固定資産処分損の内訳は建物 0百万円、借入店舗造作16百万円、構築物 0百万円、機械及び装置 6百万円、工具器具及び備品 3百万円、土地15百万円、無形固定資産 6百万円であります。								
7	一般管理費に含まれる研究開発費は53百万円であります。	7	一般管理費に含まれる研究開発費は43百万円であります。								
		8	減損損失の内訳は次のとおりであります。 当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>減損損失</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京東支店 東京都葛飾区 千葉支店 千葉県千葉市美浜区</td> <td>クリーニング工場及び店舗</td> <td>借入店舗造作、 機械及び装置、 土地、リース資産等</td> <td>331百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社は、事業用資産については、支店を最小単位とグルーピングを行っております。 当事業年度においては、市況の悪化により、東京東支店及び千葉支店に係る資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失として、特別損失に計上いたしました。 減損損失331百万円の内訳は、借入店舗造作20百万円、機械及び装置37百万円、土地235百万円、リース資産22百万円及びその他15百万円であります。 なお、当資産グループの回収可能価額は主に使用価値により測定しており、将来キャッシュフローを3%で割り引いて算定しております。</p>	場所	用途	種類	減損損失	東京東支店 東京都葛飾区 千葉支店 千葉県千葉市美浜区	クリーニング工場及び店舗	借入店舗造作、 機械及び装置、 土地、リース資産等	331百万円
場所	用途	種類	減損損失								
東京東支店 東京都葛飾区 千葉支店 千葉県千葉市美浜区	クリーニング工場及び店舗	借入店舗造作、 機械及び装置、 土地、リース資産等	331百万円								

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)

1 自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (株)	当事業年度増加株式数 (株)	当事業年度減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
自己株式				
普通株式(注)	87,250	26,567		113,817
合計	87,250	26,567		113,817

(注) 普通株式の自己株式の増加 26,567株は、単元未満株式の買取による増加であります。

当事業年度(自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)

1 自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (株)	当事業年度増加株式数 (株)	当事業年度減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
自己株式				
普通株式(注)	113,817	5,406		119,223
合計	113,817	5,406		119,223

(注) 普通株式の自己株式の増加 5,406株は、単元未満株式の買取による増加であります。

(リース取引関係)

前事業年度 自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日						当事業年度 自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日							
リース取引に関する平成20年12月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引 (借主側) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額						リース取引に関する平成20年12月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引 (借主側) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額							
	使用中 リネン (百万円)	有形固定資産			無形 固定資産	合計 (百万円)		使用中 リネン (百万円)	有形固定資産			無形 固定資産	合計 (百万円)
		機械 及び装置 (百万円)	車両 運搬具 (百万円)	工具、器 具及び 備品 (百万円)	ソフト ウェア (百万円)			機械 及び装置 (百万円)	車両 運搬具 (百万円)	工具、器 具及び 備品 (百万円)	ソフト ウェア (百万円)		
取得価額 相当額	44	774	181	412	15	1,429	取得価額 相当額	624	103	259	5	992	
減価償却 累計額相 当額	42	465	129	288	11	938	減価償却 累計額相 当額	491	88	209	4	793	
期末残高 相当額	2	309	51	123	3	491	期末残高 相当額	132	15	49	0	198	
未経過リース料期末残高相当額						未経過リース料期末残高相当額							
1年以内						296百万円	1年以内						129百万円
1年超						213	1年超						80
合計						509	合計						210
支払リース料及び減価償却費相当額及び支払利息相当額						支払リース料及び減価償却費相当額及び支払利息相当額							
支払リース料						505百万円	支払リース料						298百万円
減価償却費相当額						472	減価償却費相当額						281
支払利息相当額						22	支払利息相当額						10
減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法						減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法							
減価償却費相当額の算定方法						減価償却費相当額の算定方法							
・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。						同左							
利息相当額の算定方法						利息相当額の算定方法							
・リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。						同左							
(減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありませんので、項目等の記載は省略しております。						(減損損失について) 同左							

前事業年度 自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日	当事業年度 自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日								
<p>1. ファイナンス・リース取引 (借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 (1) リース資産の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流動資産 レンタル事業における使用中リネンであります。 ・有形固定資産 クリーニング機械(機械及び装置)等であります。 ・無形固定資産 ソフトウェアであります。 <p>(2) リース資産の減価償却の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。 <p>2. オペレーティング・リース取引 (借主側) オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料 百万円</p> <p>(追加情報) オペレーティング・リース取引の注記については、従来、注記を要しない重要性の乏しい取引を含めて開示しておりましたが、当事業年度から注記を要しない重要性の乏しい取引を含めずに開示しております。 なお、従来の方法によった場合は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未経過リース料</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">1年以内</td> <td style="text-align: right;">83百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">1年超</td> <td style="text-align: right;">67</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">151</td> </tr> </table>	未経過リース料		1年以内	83百万円	1年超	67	合計	151	<p>1. ファイナンス・リース取引 (借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 (1) リース資産の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流動資産 同左 ・有形固定資産 同左 ・無形固定資産 同左 <p>(2) リース資産の減価償却の方法 同左</p>
未経過リース料									
1年以内	83百万円								
1年超	67								
合計	151								

(有価証券関係)

前事業年度(平成22年12月31日現在)

子会社及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額 (百万円)
子会社株式	2,074
関連会社株式	51
合計	2,126

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

当事業年度(平成23年12月31日現在)

子会社及び関連会社株式

区分	貸借対照表計上額 (百万円)
子会社株式	2,240
関連会社株式	51
合計	2,291

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

前事業年度 平成22年12月31日	当事業年度 平成23年12月31日																																																																																																
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">44百万円</td></tr> <tr><td>株主優待引当金</td><td style="text-align: right;">12</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">1,415</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">79</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">63</td></tr> <tr><td>環境対策引当金</td><td style="text-align: right;">14</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">13</td></tr> <tr><td>未払事業所税</td><td style="text-align: right;">21</td></tr> <tr><td>固定資産減損損失</td><td style="text-align: right;">16</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">20</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">41</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">266</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">116</td></tr> <tr><td>小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,125</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">194</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">1,931</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>圧縮記帳積立金</td><td style="text-align: right;">531</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">99</td></tr> <tr><td>退職給付信託設定益</td><td style="text-align: right;">335</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">966</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td></td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">964</td></tr> </table> <p>(注) 当期における繰延税金資産の純額は貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">231百万円</td></tr> <tr><td>固定資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">733</td></tr> </table>	賞与引当金	44百万円	株主優待引当金	12	退職給付引当金	1,415	役員退職慰労引当金	79	貸倒引当金	63	環境対策引当金	14	未払事業税	13	未払事業所税	21	固定資産減損損失	16	投資有価証券評価損	20	その他有価証券評価差額金	41	繰越欠損金	266	その他	116	小計	2,125	評価性引当額	194	繰延税金資産合計	1,931	圧縮記帳積立金	531	その他有価証券評価差額金	99	退職給付信託設定益	335	繰延税金負債合計	966		964	流動資産 - 繰延税金資産	231百万円	固定資産 - 繰延税金資産	733	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">39百万円</td></tr> <tr><td>株主優待引当金</td><td style="text-align: right;">7</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">1,044</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">70</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">57</td></tr> <tr><td>環境対策引当金</td><td style="text-align: right;">10</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">11</td></tr> <tr><td>未払事業所税</td><td style="text-align: right;">20</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">118</td></tr> <tr><td>資産除去債務</td><td style="text-align: right;">53</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損</td><td style="text-align: right;">17</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">92</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">463</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">105</td></tr> <tr><td>小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,113</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">329</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">1,784</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>圧縮記帳積立金</td><td style="text-align: right;">465</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">70</td></tr> <tr><td>退職給付信託設定益</td><td style="text-align: right;">294</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">5</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">835</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td></td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">949</td></tr> </table> <p>(注) 当期における繰延税金資産の純額は貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">304百万円</td></tr> <tr><td>固定資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">644</td></tr> </table>	賞与引当金	39百万円	株主優待引当金	7	退職給付引当金	1,044	役員退職慰労引当金	70	貸倒引当金	57	環境対策引当金	10	未払事業税	11	未払事業所税	20	減損損失	118	資産除去債務	53	投資有価証券評価損	17	その他有価証券評価差額金	92	繰越欠損金	463	その他	105	小計	2,113	評価性引当額	329	繰延税金資産合計	1,784	圧縮記帳積立金	465	その他有価証券評価差額金	70	退職給付信託設定益	294	その他	5	繰延税金負債合計	835		949	流動資産 - 繰延税金資産	304百万円	固定資産 - 繰延税金資産	644
賞与引当金	44百万円																																																																																																
株主優待引当金	12																																																																																																
退職給付引当金	1,415																																																																																																
役員退職慰労引当金	79																																																																																																
貸倒引当金	63																																																																																																
環境対策引当金	14																																																																																																
未払事業税	13																																																																																																
未払事業所税	21																																																																																																
固定資産減損損失	16																																																																																																
投資有価証券評価損	20																																																																																																
その他有価証券評価差額金	41																																																																																																
繰越欠損金	266																																																																																																
その他	116																																																																																																
小計	2,125																																																																																																
評価性引当額	194																																																																																																
繰延税金資産合計	1,931																																																																																																
圧縮記帳積立金	531																																																																																																
その他有価証券評価差額金	99																																																																																																
退職給付信託設定益	335																																																																																																
繰延税金負債合計	966																																																																																																
	964																																																																																																
流動資産 - 繰延税金資産	231百万円																																																																																																
固定資産 - 繰延税金資産	733																																																																																																
賞与引当金	39百万円																																																																																																
株主優待引当金	7																																																																																																
退職給付引当金	1,044																																																																																																
役員退職慰労引当金	70																																																																																																
貸倒引当金	57																																																																																																
環境対策引当金	10																																																																																																
未払事業税	11																																																																																																
未払事業所税	20																																																																																																
減損損失	118																																																																																																
資産除去債務	53																																																																																																
投資有価証券評価損	17																																																																																																
その他有価証券評価差額金	92																																																																																																
繰越欠損金	463																																																																																																
その他	105																																																																																																
小計	2,113																																																																																																
評価性引当額	329																																																																																																
繰延税金資産合計	1,784																																																																																																
圧縮記帳積立金	465																																																																																																
その他有価証券評価差額金	70																																																																																																
退職給付信託設定益	294																																																																																																
その他	5																																																																																																
繰延税金負債合計	835																																																																																																
	949																																																																																																
流動資産 - 繰延税金資産	304百万円																																																																																																
固定資産 - 繰延税金資産	644																																																																																																
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.69%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>住民税均等割額</td><td style="text-align: right;">22.87</td></tr> <tr><td>交際費の損金不算入</td><td style="text-align: right;">4.81</td></tr> <tr><td>受取配当金の益金不算入</td><td style="text-align: right;">18.72</td></tr> <tr><td>評価性引当額の増減</td><td style="text-align: right;">1.52</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.46</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">50.71</td></tr> </table>	法定実効税率	40.69%	(調整)		住民税均等割額	22.87	交際費の損金不算入	4.81	受取配当金の益金不算入	18.72	評価性引当額の増減	1.52	その他	0.46	税効果会計適用後の法人税等の負担率	50.71	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>税引前当期純損失を計上しているため、注記を省略しております。</p>																																																																																
法定実効税率	40.69%																																																																																																
(調整)																																																																																																	
住民税均等割額	22.87																																																																																																
交際費の損金不算入	4.81																																																																																																
受取配当金の益金不算入	18.72																																																																																																
評価性引当額の増減	1.52																																																																																																
その他	0.46																																																																																																
税効果会計適用後の法人税等の負担率	50.71																																																																																																

前事業年度 平成22年12月31日	当事業年度 平成23年12月31日
	<p>3 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の修正</p> <p>平成23年12月2日に「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が公布され、平成24年4月1日以降開始する事業年度より法人税率が変更されることとなりました。</p> <p>これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は、一時差異等に係る解消時期に応じて以下のとおりとなります。</p> <p>平成24年12月31日まで 40.69% 平成25年1月1日から平成27年12月31日 38.01% 平成28年1月1日以降 35.64%</p> <p>この税率の変更により繰延税金資産の純額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が72百万円減少し、当連結会計年度に費用計上された法人税等調整額の金額が67百万円、その他有価証券評価差額金の金額が4百万円それぞれ増加しております。</p>

(企業結合等関係)

前事業年度(自平成22年1月1日 至平成22年12月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当事業年度(自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

当事業年度末 平成23年12月31日	
資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの	
(1) 当該資産除去債務の概要	
店舗、営業所等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。	
(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法	
使用見込期間を取得から10年と見積り、割引率は1.080%から1.300%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。	
(3) 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減	
期首残高(注)	151百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	3
資産除去債務の履行に伴う減少額	6
時の経過による調整額	0
期末残高	148
(注) 「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成20年3月31日 企業会計基準第18号)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成20年3月31日 企業会計基準適用指針第21号)を当事業年度から適用したことによる期首時点における残高であります。	

(1株当たり情報)

項目	前事業年度	当事業年度
	自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日
1株当たり純資産額	157.55円	138.61円
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額()	6.30円	11.37円
	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式がないため記載しておりません。	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、1株当たり当期純損失金額であり、潜在株式がないため記載しておりません。
	1株当たり純資産額の算定上の基礎 貸借対照表上の純資産の部 6,126百万円 普通株式に係る期末の純資産額 6,126百万円 普通株式の期末株式数 38,886,183株	1株当たり純資産額の算定上の基礎 貸借対照表上の純資産の部 5,389百万円 普通株式に係る期末の純資産額 5,389百万円 普通株式の期末株式数 38,880,777株
	1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎 損益計算書上の当期純利益 245百万円 普通株式に係る当期純利益 245百万円 普通株主に帰属しない金額の主要な内訳 該当事項はありません。	1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎 損益計算書上の当期純損失 442百万円 普通株式に係る当期純損失 442百万円 普通株主に帰属しない金額の主要な内訳 該当事項はありません。
	普通株式の期中平均株式数 38,905,440株	普通株式の期中平均株式数 38,882,533株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	
投資有価証券	その他有価証券	味の素(株)	395,200	365
		J.フロントリテイリング(株)	841,000	312
		(株)みずほフィナンシャルグループ	2,535,500	263
		(株)サカタのタネ	190,000	209
		三菱鉛筆(株)	66,000	91
		(株)ホテルオークラ	20,000	80
		養命酒製造(株)	103,000	74
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	26,800	57
		帝国繊維(株)	101,000	48
		富士急行(株)	96,375	43
		藤田観光(株)	172,000	43
		(株)帝国ホテル	23,200	41
		(株)不二家	200,000	32
		その他20銘柄	193,644	78
計		4,963,719	1,744	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 及び減損 損失累計額 又は償却累計 額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	11,672	64	119	11,617	7,538	274 (3)	4,079
借入店舗造作	1,977	186	120	2,043	1,724	232 (20)	319
構築物	942	5	24	923	782	25 (0)	141
機械及び装置	5,118	45	303	4,860	4,628	117 (37)	232
車両運搬具	178	0	2	176	168	9 (0)	8
工具、器具及び備品	1,802	22	75	1,749	1,627	62 (4)	122
土地	4,625		275 (235)	4,350			4,350
リース資産	464	318	13	770	160	98 (22)	609
建設仮勘定	5	199	204				
有形固定資産計	26,786	844	1,138 (235)	26,492	16,630	820 (88)	9,861
無形固定資産							
借地権	651	17	82 (2)	587	533	27	54
ソフトウェア	985	18	41	962	826	76	136
電話加入権	52		3 (3)	48	0		48
施設利用権	70			70	67	0	3
リース資産	11			11	3	2	7
無形固定資産計	1,771	36	127 (6)	1,680	1,430	106	249
長期前払費用	598	2	2 (1)	597	594	3	2

(注) 1 建設仮勘定減少額には、長期前払費用(代理店看板代等)への振替額2百万円が含まれております。

2 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

借入店舗造作・・・ 資産除去債務計上額 141百万円

リース資産・・・ ソルカンドライ機(東京支店) 24百万円

リース資産・・・ 乾燥機(ユニフォーム西部事業所) 20百万円

3 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

土地・・・ 長野 川合新田(売却) 40百万円

なお、「当期減少額」及び「当期償却額」欄のうち()内は内書きで減損損失の計上額であります。

- 4 当期減少額には、静岡支店を会社分割し、新規設立した静岡白洋舎(株)に承継しました、建物95百万円、借入店舗
造作21百万円、構築物19百万円、機械及び装置77百万円、工具、器具及び備品20百万円、土地0百万円、リース資
産13百万円、借地権1百万円及び電話加入権0百万円を含んでおります。
- 5 当期償却費は、売上原価に613百万円(うち工料原価546百万円、不動産賃貸費用に66百万円)、一般管理費
107百万円をそれぞれ算入しております。
長期前払費用は代理店に支給の看板等であり、定額法による償却を行っております。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金(注)1	171	38	13	25	170
賞与引当金	108	96	108		96
株主優待引当金(注)2	30	18	21	9	18
災害損失引当金		11			11
役員退職慰労引当金	195	41	38		198
環境対策引当金(注)3	35		1	4	30

(注) 1 諸債権に対する貸倒損失に備えるためのものであり、当期減少額(その他)は洗替えによる戻入れ等による
ものであります。

2 株主優待引当金の当期減少額(その他)は洗替えによる戻し入れによるものであります。

3 環境対策引当金の当期減少額(その他)は静岡白洋舎(株)の会社分割によるもの及び戻入益であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

(資産の部)

流動資産

流動資産の総額は7,056百万円で、資産総額に対する割合は29.59%であり、流動比率は74.24%であります。

洗濯業はサービス業でありますので原材料の貯蔵が少ないため、他の製造業に比し、流動資産中に占めるたな卸資産の割合は少なく当座資産の割合が大であります。

イ 現金及び預金

摘要		金額(百万円)
現金		92
預金	当座預金	425
	普通預金	29
小計		454
合計		547

ロ 受取手形(洗濯工料及び品代)

(イ)相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)カワタキコーポレーション	49
日本ウエックス(株)	10
日本冶金工業(株)	3
三基科学工業(株)	2
セキシステムサプライ(株)	1
その他(株)千代田資材他)	1
合計	68

(ロ)期日別内訳

期日	金額(百万円)
24年 1月	21
2月	14
3月	15
4月	15
5月	0
合計	68

八 売掛金

売掛金は洗濯加工料等でありまして、その客筋別の内訳は次のとおりであります。

摘要	金額(百万円)
得意係及び店扱	646
大口扱	1,639
百貨店扱	20
代理店扱	59
合計	2,366

(注) 百貨店扱にはスーパーマーケット扱関係を含んでおります。

当社の工料収入は現金客と月極め客との2種に区分して集金されますが、月極め客に対してもきわめて短期間に回収されますので、売掛金の残高は平均1カ月の売上高の範囲を越えることは原則としてありません。

売掛金の主な相手先は次のとおりであります。

相手先	金額(百万円)
(株)ローソン	316
(株)ホテルオークラ	67
(株)帝国ホテル	49
(株)森ビルホスピタリティコーポレーション	35
ザ・ペニンシュラ東京	28
その他(株)ナイスデイ他)	1,868
合計	2,366

(注) 当社の得意先は主として一般顧客であるため、大口顧客の売掛金の割合は少なくなっております。売掛金の回収状況は次のとおりであります。

前期末残高 (百万円) (A)	発生高 (百万円) (B)	回収高 (百万円) (C)	期末残高 (百万円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
2,451	33,154	33,238	2,366	93.35	26.52

二 商品及び製品

区分	金額(百万円)
家庭用石けん・洗剤	1
防虫剤	4
加工剤	1
洋服カバー	1
その他	54
合計	63

ホ 使用中リネン

区分	金額(百万円)
リネンサプライ用	880
ケミサプライ用	276
ユニフォームレンタル用	686
合計	1,843

(注) リネンサプライ用は3年定率、ケミサプライ用・ユニフォームレンタル用は一定耐用期間にてリネン消耗額を算定して評価してあります。

ヘ 貯蔵品

区分	金額(百万円)
工場作業用資材	
溶剤	55
洗剤	7
加工剤・しみ抜き剤	12
マーク修理材	3
靴・カギ修理材	0
燃料	3
包装用品	21
未使用リネン他	66
その他	34
合計	204

ト リース資産

区分	金額(百万円)
コンビニエンスストア用ユニフォーム	681
合計	681

固定資産

イ 関係会社株式

区分	銘柄	金額(百万円)
子会社株式	信和実業(株)	642
	共同リネンサプライ(株)	532
	その他	1,064
関連会社株式	恒隆白洋舎有限公司	23
	東京ホールセール(株)	23
	その他	27
合計		2,291

ロ 差入保証金

内容	保証金(百万円)	敷金等(百万円)	合計(百万円)	差入先
四条大宮サービス店	126	3	129	信和実業(株)
千葉支店建物賃貸	100		100	信和実業(株)
北沢サービス店	40		40	信和実業(株)
ルミネ大船サービス店	9	28	38	(株)ルミネウイング
成城学園サービス店		33	33	山本 弘
名駅サービス店	32		32	名古屋地下振興(株)
高槻天神サービス店	30		30	高槻パック(株)
学芸大学サービス店	28		28	中山 仲子
一の橋サービス店	24		24	石川 誠・石束 正明
外苑前サービス店	24		24	中川 博之
なんなんサービス店	20		20	大阪地下街(株)
長者町サービス店	20		20	(株)トロージャン
リッツカールトン	20		20	ザ・リッツ・カールトン プロパティ・マネジメン トカンパニー東京(有)
小手指サービス店他	861	598	1,459	(株)宇佐美他
計	1,336	663	2,000	

(負債の部)

流動負債

流動負債の総額は9,505百万円で、負債純資産合計に対する割合は39.85%であります。

流動負債中主なるものの内容は次のとおりであります。

イ 買掛金

相手先	金額(百万円)
(株)双立	97
(株)三良コーポレーション	75
ブルーミング中西(株)	59
(株)ヤギセイ	47
(株)廣瀬商会	43
その他 (株)竹本ランドリー他)	1,129
合計	1,452

ロ 短期借入金

区分	金額(百万円)
株式会社みずほコーポレート銀行	800
株式会社三井住友銀行	800
農林中央金庫	500
株式会社三菱東京UFJ銀行	300
住友信託銀行株式会社	300
合計	2,700

ハ 1年内返済予定の長期借入金

区分	金額(百万円)
株式会社みずほコーポレート銀行	405
住友信託銀行株式会社	201
株式会社三井住友銀行	157
株式会社三菱東京UFJ銀行	135
中央三井信託銀行株式会社	32
第一生命保険株式会社	23
朝日生命保険相互会社	23
三菱UFJ信託銀行株式会社	23
農林中央金庫	23
明治安田生命相互会社	23
シンジケート団(株式会社横浜銀行他23行)	1,312
合計	2,363

固定負債

イ 長期借入金

区分	金額(百万円)
株式会社みずほコーポレート銀行	465
住友信託銀行株式会社	213
株式会社三菱東京UFJ銀行	74
農林中央金庫	52
明治安田生命相互会社	52
株式会社三井住友銀行	33
第一生命保険株式会社	5
朝日生命保険相互会社	5
三菱UFJ信託銀行株式会社	5
中央三井信託銀行株式会社	5
シンジケート団(株式会社横浜銀行他18行)	4,187
合計	5,101

ロ 退職給付引当金

区分	金額(百万円)
退職給付債務	7,628
未認識過去勤務債務	625
未認識数理計算上の差異	1,987
年金資産	4,543
合計	1,722

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日、12月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 公告掲載URL http://www.hakuyosha.co.jp/
株主に対する特典	<p>期末現在の株主に、其の所有株に対し下記の通り優待、無料サービス券及び3割引券を呈上する。</p> <p>1 無料券は300,000株までは2,000株ごとに1枚、300,000株超過分には5,000株ごとに1枚、3割引券は1,000株ごとに1枚を呈上。</p> <p>2 無料券、3割引券共に1枚を以って洗濯物1着に対し有効。又洗濯物1着に対しては1枚のみ有効とする。</p> <p>有効期間 各年度の決算期交付分 4月1日～9月30日 各年度の間決算期交付分 10月1日～3月31日</p>

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに有価証券報告書の確認書

事業年度 第118期(自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)平成23年 3月31日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第118期(自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)平成23年 3月31日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書

事業年度 第119期第 1 四半期(自 平成23年 1月 1日 至 平成23年 3月31日)平成23年 5月13日関東財務局長に提出。

事業年度 第119期第 2 四半期(自 平成23年 4月 1日 至 平成23年 6月30日)平成23年 8月12日関東財務局長に提出。

事業年度 第119期第 3 四半期(自 平成23年 7月 1日 至 平成23年 9月30日)平成23年11月11日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第 2 項第 9 号の 2 (株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書 平成23年 4月 5日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第 2 項第12号及び第19号 (当社及び当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象)の規定に基づく臨時報告書 平成24年 1月27日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年3月31日

株式会社 白 洋 舎
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 星 野 正 司
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 永 澤 宏 一
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 諏 訪 部 修

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社白洋舎の平成22年1月1日から平成22年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社白洋舎及び連結子会社の平成22年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社白洋舎の平成22年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者であり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社白洋舎が平成22年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管している。
 - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年3月30日

株式会社 白 洋 舎
取 締 役 会 御 中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 永 澤 宏 一

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 諏 訪 部 修

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社白洋舎の平成23年1月1日から平成23年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社白洋舎及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社白洋舎の平成23年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者であり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社白洋舎が平成23年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管している。
 - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。

独立監査人の監査報告書

平成23年3月31日

株式会社 白 洋 舎
取 締 役 会 御 中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 星 野 正 司
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 永 澤 宏 一
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 諏 訪 部 修

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社白洋舎の平成22年1月1日から平成22年12月31日までの第118期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社白洋舎の平成22年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管している。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。

独立監査人の監査報告書

平成24年 3月30日

株式会社 白 洋 舎
取 締 役 会 御 中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 永 澤 宏 一
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 諏 訪 部 修

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社白洋舎の平成23年1月1日から平成23年12月31日までの第119期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社白洋舎の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管している。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。